令和２年度

教育委員会点検・評価報告書

令和３年１０月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

１ 点検・評価の対象
２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１ 教育委員会の活動状況の概要報告・・・・・・・・・・・・・・　３
２ 重点施策の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
３ 重点施策の評定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・・　５９

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６２

Ⅵ 参考資料

１　令和２年度教育行政執行方針
２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の改定により、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされた。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、令和２年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（19 項目）について点検・評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめた。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ることとする。

Ⅱ 評価の手法

１ 点検・評価の対象

登別市教育委員会の点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、令和２年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施した。

２ 実施の流れ

⑴ 教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

⑵ 令和２年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価した。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評　　価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

⑶ 教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（Ａ～Ｄ）で、評価を実施した。

Ａ：達成しているもの
Ｂ：おおむね達成しているもの
Ｃ：達成見込みであるが一部課題があるもの
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの

⑷ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する行政外部の方からの意見、助言をいただいた。

氏　　名	所　　属　　等
引　地　政　征　氏	日本工学院北海道専門学校　副校長
加　藤　清　之　氏	登別市退職校長会　会長
吉　野　幸　広　氏	前登別市郷土資料館　館長

Ⅲ 評価結果

１ 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議については、毎月一回、開催した。令和２年度は、必要に応じて開催する臨時会議を開催しなかった。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承された。また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、意見交換を行った。

(2) 令和２年度　登別市教育委員会「定例会議」の概要

例年、第１回会議を４月下旬に開催しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言の発令により、第１回会議を５月下旬とした。

第１回 会議	5/28 16:30	報告第１号 教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理について 報告第２号 市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第１号 登別市重大事案対策委員会委員の委嘱について 議案第２号 登別市立図書館協議会委員の任命について 議案第３号 登別市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第４号 登別市社会教育委員の委嘱について 情報提供１ 新型コロナウイルス感染症に係る学校の対応について ２ 令和２年度登別市小中学校「校長会」「教頭会」三役について ３ 令和２年度学校施設等の工事計画について ４ 令和２年５月１日時点登別市立学校児童生徒数・学級数調書について ５ 令和２年度登別市立学校主要行事等予定一覧について ６ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等にかかる市内イベント等の中止・延期情報等について ７ 令和元年度巡回パトロール活動及び街頭指導等状況について ８ 令和元年度不審者等出没状況調書について ９ 登別公民館の廃止方針（案）及び登別市公民館条例の一部改正（案）に係る意見公募の実施結果について １０ 登別市公民館条例の一部改正について １１ 登別市のアイヌ文化ウェブサイトの開設について 意見交換から(委員の意見・感想) ○コロナ禍で学校がとても重要なものだとつくづく感じた２ヶ月だった。子どもたちも大きなストレスを感じて生活していることを考えれば、６月１日の授業再開後は学校が長期の臨時休業にならないよう、願いたい。 ○コロナは医療従事者の一人としても大きなストレスとなる。子どもたちにこの危険性をどう教えるのか難しいと思うが、力を合わせて教えていくしかない。
第２回 会議	6/25 16:30	報告第３号 市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第４号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第５号 令和２年第２回登別市議会定例会一般質問について 報告第６号 令和２年度教科用図書第１０採択地区調査委員の委嘱に係る臨時代理について

		議案第５号 令和元年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について 議案第６号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第７号 登別市重大事案対策委員会への諮問について 情報提供１ 新型コロナウイルス感染症に係る学校の対応について ２ 公立高等学校配置計画案（令和３～５年度）について 意見交換から(委員の意見・感想) ○コロナ禍で子どもたちはストレスを受けているため、一度でもアンケートを取った方が良いと思う。今後の長期休業等の対策を考える上でも、子どもたちの心の変化をつかんでおいた方が良い。検討いただければと思う。
第３回 会議	7/30 16:30	報告第７号 教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理について 報告第８号 市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第９号 登別市重大事案対策委員会委員の委嘱に係る臨時代理ついて 議案第８号 登別市公民館条例施行規則の一部改正について 議案第９号 登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 情報提供１ 登別市重大事案対策委員会の開催について ２ 携帯電話やスマートフォン等についてのアンケート結果について 意見交換から(委員の意見・感想) ○「スマホの使用により、若者の睡眠時間が１時間位長くなっている。スマホがない状況では、若者は夜、遊びに出てしまうので寝ない。今は遊びに出ないので、結果的に睡眠時間が長くなっている。スマホが悪いばかりではない」という肯定的な意見が新聞に載っていた。スマホを責める意見ばかりではないようだ。
第４回 会議	8/27 16:30	報告第１０号 市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第１０号 令和３年度から使用する教科用図書の採択について 議案第１１号 登別市立学校体育施設（屋内運動場）開放事業実施要綱の一部改正について 情報提供１ 市民プール屋根防水改修工事について ２ 朝イチ・リフレッシュ体操について
第５回 会議	9/24 16:30	報告第１１号 市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第１２号 令和２年第３回登別市議会定例会一般質問について 議案第１２号 登別市体育協会の名称変更に伴う関係規則の整理に関する規則の制定について 情報提供１ 第１回登別市幼保小中連携協議会の概要について 追加資料１ 心と体に関するアンケート ２ 教育長出席会議 意見交換から(委員の意見・感想) ○コロナ禍で当初、学校はつまらないという子どもたちの声が聞こえたが、学習の遅れを取り戻すべく、学校も家庭も教育委員会も一生懸命やってくれたおかげで順調に授業の進度が回復しているとのこと、安心している。子どもたちは、楽しい行事が削られて淋しさもあると思うが、運動会ができるようで喜んでいる。 ○登別市幼保小中連携協議会でスタートカリキュラムを作ったことはとても良いこと。資料を見ると生活科と書写が１時間の中に２コマが入っている。これは今までからするとカリキュラムの中では工夫されている。担任の配慮で行われてきた

		ものが、このように教育課程の中でできるということは素晴らしいと感じた。
第６回 会議	10/30 16:30	議案第１３号 平成３１年度(令和元年度)教育行政執行事務の管理執行状況の点検・評価報告について 情報提供１ 登別地区 学校規模の適正化に関する意見交換会について ２「心と体に関するアンケート」集計結果・考察について ３「ふれあいウィーク」の中止について ４ 教育指導室「メール相談窓口」の開設について ５ 冬季休業及び今後の学校行事について ６ 令和２年度登別市功労者表彰及び登別市表彰被表彰者の決定について ７ 登別版＜家族の週間＞の実施について ８ 令和２年度図書館要覧について ※ 令和２年度登別の教育配布
第７回 会議	11/26 16:30	議案第１４号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第１５号 学校給食費の徴収方法等の変更について 議案第１６号 登別市立学校学校医等表彰について 情報提供１ 廃止施設等除却推進プランについて 意見交換から(委員の意見・感想) ○学校給食費の徴収方法が素晴らしい方法に変更された。学校現場では、特に滞納している給食費の催促が難しかった。教職員の働き方改革にもつながる。
第８回 会議	12/24 16:30	報告第１３号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第１４号 令和２年第４回登別市議会定例会一般質問について 議案第１７号 登別市立図書館条例施行規則の一部改正について 議案第１８号 登別市学校給食費収納条例施行規則の制定について 議案第１９号 登別市立学校体育施設（屋内運動場）開放事業実施要綱の一部改正について 情報提供１ 令和３年度教育行政執行方針（案）概要について ２ 登別市学校給食費収納条例の一部改正について ３ 令和３年登別市成人祭について
第９回 会議	1/28 16:30	報告第１５号 登別市教育委員会教育長職務代理者の指名について 議案第２０号 令和３年度登別市教育行政執行方針について 情報提供１ 令和３年度北海道登別明日中等教育学校の合格状況について ２ 公の施設に係る指定管理者の指定について ３ 令和２年度登別版「家族の週間」協賛団体施設利用状況について ４ 青葉小学校における新型コロナウイルス感染症感染者の発生について ５ 令和２年度市内小中学校の卒業式の日程について ６ 教育長出席会議について（第２回胆振管内教育委員会教育長会議） 意見交換から(委員の意見・感想) ○教科担任制の導入が報道されていた。2022年度から始まるなら、学校力向上事業で幌別西小・幌別東小・幌別小が教科担任制を進めれば、他の学校も黙っていられない。今までの少人数指導、ＴＴ（ティーム・ティーチング）からの切り替えが大変かもしれない。 ○働き方改革が進まない部分は、それぞれ実際に学校現場で教職員が難しさを感じている。それを環流できるような形にするとさらに改革は進んでいくと思う。

第10回 会議	2/25 16:30	議案第１７号　令和2年度登別市教育行政執行方針について 議案第１８号　登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 報告第１６号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第２１号 登別市児童生徒就学援助規則の一部改正について 議案第２２号 登別市文化財審議会委員の委嘱について 情報提供１　令和３年度教育行政執行方針について ２　令和３年度市内小中学校入学式の日程について 意見交換から(委員の意見・感想) ○「鬼っ子算数教室」は、放課後に残る子どもたちの人数が学校や担任によって大きく異なってしまう。執行方針にあるような方法で問題を提示すれば「確かな学力の向上」を目指すことができると思う。
第11回 会議	3/22 15:00	報告第１７号 市議会定例会追加提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第１８号 令和３年第１回登別市議会定例会一般質問について 報告第１９号 教職員人事の内申に係る臨時代理の報告について 議案第２３号 行政手続等の押印の見直しに伴う関係規則の整備に関する規則の制定について 議案第２４号 登別市立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部を改正する訓令の制定について 議案第２５号 登別市立中学校部活動指導員設置規則の一部改正について 議案第２６号 登別市遠距離通学児童及び生徒通学費補助金交付要綱の改正について 情報提供１　令和２年度土曜授業事業実績及び令和３年度事業計画について ２　令和２年度学校運営協議会実施状況について ３　登別市立学校における食物アレルギー対応の手引きについて ４　幼保小連携の状況について ５　令和３年度進路状況について ６　第６次登別市社会教育中期計画の策定について ７　登別市重大事案対策委員会からの答申について 意見交換から(委員の意見・感想) ○幼保小の連携が今年で終わるとのこと。スタートカリキュラムができたことはとても良かったが、その中身を変更していけるような組織、学校独自ではなく他校と連携していくことができれば、さらに良くなると思う。

(3) 調査活動の実施状況

教育委員会委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施なし。

②教育ふれあいウィーク

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施なし。

③各種会議・研修会の参加

北海道都市教育長会春季定期総会（夕張市）書面開催

秋季定期総会（北斗市）書面開催

全国都市教育長協議会（山口県山口市）延期

胆振管内教育長会議　4/9

北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（釧路市）書面開催

新型コロナウイルス感染症への対応に係るテレビ会議　4/30　5/26

④入学式出席

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を見合わせた。

⑤運動会参観

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を見合わせた。

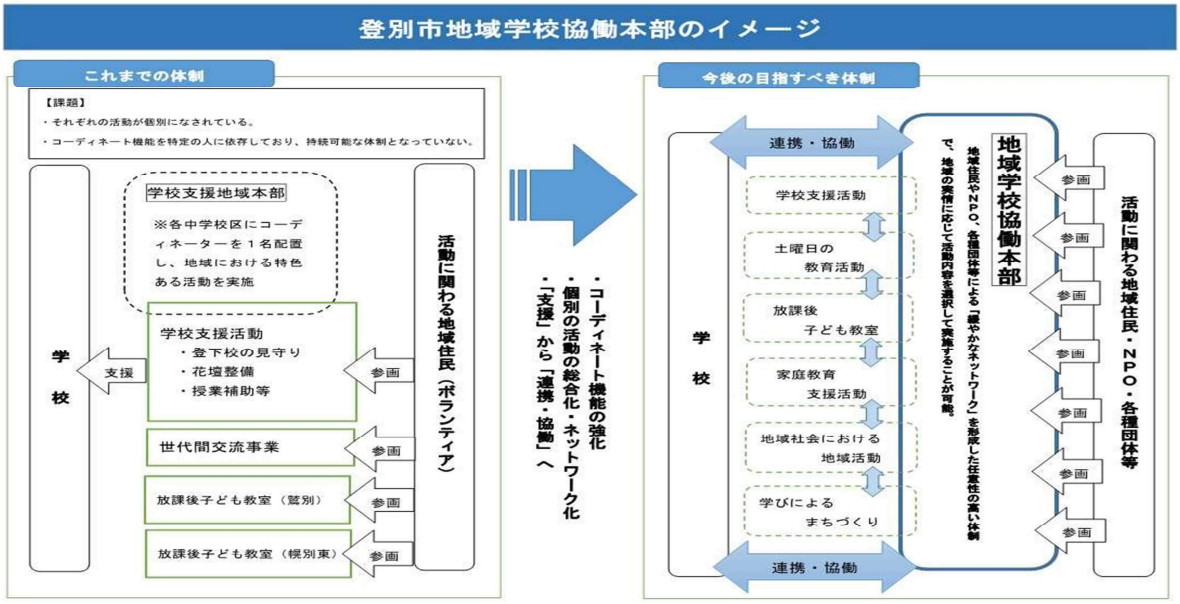
⑥卒業証書授与式出席

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を見合わせた。

２ 重点施策の評価

項　目	１　地域とともにある学校づくり
点検内容	本市においては、地域と学校が連携・協働体制を構築し、地域全体で子供たちの育成を図る「地域学校協働本部事業」に取り組んできた。 今後は、よりきめ細やかに地域の実情を把握し、将来を見据えて持続可能な取組とするため、学校コーディネーターの配置を段階的に進め、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により、登別らしい特色ある教育活動を展開していく。

取組状況



○学校コーディネーターの配置

幌別中・西陵中・登別中に配置済み。

【推進計画】地域の実情に応じて段階的に整備予定。

令和元年度末までに５名　令和２年度末までに３名　令和３年度末までに５名（計１３名）

○学校運営協議会の話し合いの内容

	月	日	主な議題（学校経営方針以外）	次年度の方向性
幌別小	7	30	学力向上　基本的な生活習慣の定着　豊かな心の育成	140周年の取組を地域・家庭に周知し、熟議を進める
	12	18	いじめ防止の取組　働き方改革に伴う業務改善　学校評価	
	2	18	生活の様子(指導部長より)　学校評価集計結果　学校関係者評価	

登別小	第1回		いじめ調査･携帯スマホ調査結果　保健活動　すいみん表の取組　**中止**	幼保小中連携を一層充実させ、地域の教育力の更なる活用を図る
	第2回		前期学校評価　全国学力調査結果概要　授業参観　給食試食　**中止**	
	第3回		【幼小中合同】睡眠時間等から見る学習・生活習慣上の実態と課題　**中止**	
	2月		学校評価　学校関係者評価　**書面**	
若草小	6	9	学校経営方針の承認　各種学校行事、地域交流祭り等の実施予定	町内会とＰＴＡがさらに連携を深め子どもたちの健全な育成について一層の充実を図る
	7	16	**中止**	
	9	4	1学期の反省と2学期の重点　コロナ対策を踏まえた教育活動の現況	
	12	17	2学期の反省と3学期の重点　コロナ対策を踏まえた教育活動の現況	
	3	12	学校評価結果　次年度の教育活動　地域交流祭り　情報交流	
鷲別小	第1回		学校運営方針･進捗状況　新校舎落成･130周年記念事業の解散　**書面**	社会に開かれた教育課程の実現を図る
	第2回		学力･体力の状況　コロナ対策　学校評価　地域･保護者との連携　**書面**	
	第3回		学校の新しい生活様式における教育課程、児童生徒の様子　**書面**	
	3	25	学校関係者評価　令和2年度の進捗状況　令和3年度の計画	
幌東小	6	23	地域行事･ふれあい農園･学習支援ボランティアの中止	読書活動、チャレンジタイム、よりよい生活習慣の確立を継続推進する
	第2回		学校評価結果と改善策　**中止**	
幌西小	6	25	役員選出　臨時休業中の様子　令和2年度学校経営方針と教育活動	小中連携事業への協力(CSとの一体化を目指して)
	11	10	授業参観　総合的な学力形成　令和3年度年間行事予定	
	2	17	【小中合同】令和2年度を振り返って　学校評価結果	
富岸小	第1回		学校経営方針の説明･承認　学校と家庭で育みたい10項目　**書面**	次年度も合同運営協議会において、共通の話題で熟議する
	11	7	運営事項中間報告　学校運営協議会全体計画　授業再開後の学校生活	
	第3回		【小中合同】　**中止**	
	3	9	今年度のCS事業　学校関係者評価	
青葉小	5	19	学校運営協議会規約･組織の確認　令和2年度の学校運営　**書面**	学校周辺の安全(ふれあい坂改修を含む)
	2	26	令和3年度の学校経営方針　学校関係者評価　**書面**	
幌別中	11	25	学校経営方針説明　授業評価結果　保健室利用状況　不登校･いじめ	合同学校運営協議会に向けて協議
	2	16	学校評価についての説明協議　全国体力･運動能力・生活習慣調査結果	
西陵中	7	17	学校運営の状況　コロナ禍における生徒の状況　全国学力調査	感染状況を踏まえながら個別懇談できる機会をもつ
	11	25	前期学校評価アンケート結果　いじめ･不登校　情報交流　**中止**	
	2	17	【小中合同】令和2年度を振り返って　学校評価結果　意見交流	
鷲別中	7	17	重大事案について報告　学校行事･参観日等についてお願い	子どもと向き合う時間の十分な確保を図る
	10	30	今年度の教育活動　重大事案について報告	
	3	15	今年度の教育活動　学校評価(保護者アンケート)	
登別中	8	20	令和2年度グランドデザイン　携帯スマホ調査　臨休明けの生徒の様子	学校運営協議会が幼保小連携を深めていく役割を担う
	11	19	後期学校評価結果の説明　**中止**	
	第3回		後期学校評価結果の説明　**中止**	
緑陽中	9	11	**中止**	コロナ禍でも開催できるよう会議の持ち方を工夫する
	2	4	**中止**	
	2	12	今年度の教育活動　生徒指導　学校評価　地域との連携	

○各校の土曜授業取組状況　※道の指定を受けて７年目　平成29年度より全13校が協力校として取り組む。

	月	日	1校時	2校時	3校時	授業	行事	振　替	備　考
幌別中	9	12	授業	授業	学級懇談	2	0	冬季休業	参観日・学級懇談会
	11	7	授業	授業（合唱発表）	授業（総合発表）	3	0	冬季休業	参観日（合唱発表会、総合的な学習の時間発表会）
幌別小	9	12	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	
	11	7	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	
	12	12	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	
幌東小	9	12	授業	授業	授業	3	0	夏季休業	
	11	7	授業	「東っ子タイム」発表会		3	0	冬季休業	総合的な学習の時間・生活科の発表会
	12	5	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	

	月	日	1校時	2校時	3校時	授業	行事	振　替	備　考
西陵中	7	11	①②③教科	①②③教科	①②③教科	3	0	夏季休業	3年＜西陵版＞全国学力・学習状況調査の実施
	8	29	①②③教科	行事	行事	1	2	夏季休業	小中合同避難訓練(幌西小と最短ルートで実施)
	11	7	①②③教科	①②③教科	①③教科②特別活動	3	0	冬季休業	
	12	12	①②③教科	①総合②③教科	①教科②③総合	3	0	冬季休業	3年対象合格祈願餅つき中止※全校に市販の餅配布 4校時全学年総合
幌西小	7	4	授業	授業	授業	4	0	夏季休業	4校時：授業
	8	29	授業	小中合同避難訓練	小中合同避難訓練	1	2	夏季休業	西陵中学校と合同実施
	11	7	授業	授業	授業	3	1	冬季休業	4校時：保護者引き渡し訓練（災害等を想定）
	11	28	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	1～3校時のうち20分間　短縄発表会（保護者なし）

	月	日	1校時	2校時	3校時	授業	行事	振　替	備　考
鷲別中	7	18	教科・総合	教科	道徳	3	0	夏季休業	1校時：3年進路集会（総合）　2校時：保護者対象宿泊研修説明会　　3校時：保護者対象修学旅行説明会
	9	12	避難訓練　チャレンジテスト	避難訓練　チャレンジテスト	避難訓練　チャレンジテスト	3	0	夏季休業	避難訓練（1年：1校時、2年：2校時、3年：3校時）
	11	7	道徳	教科・学活	教科・総合	3	0	冬季休業	ふれあいデー（地域参観日）、2校時：2年学年レク、3校時：1年ふるさと学習事後学習・3年進路集会
	12	12	教科・道徳	教科・道徳	学活	3	0	冬季休業	3校時：新入生保護者説明会
鷲別小	11	28	授業	授業	授業	4	0	冬季休業	B日課4時間授業
	12	19	授業	授業	授業	4	0	冬季休業	B日課4時間授業
	1	16	授業	授業	授業	4	0	冬季休業	B日課4時間授業
若草小	7	18	授業	授業	授業	4	0	夏季休業	授業
	9	12	授業	授業	授業	4	0	夏季休業	授業
	10	24	授業	授業	授業	4	0	冬季休業	授業
	12	12	授業	授業	授業	4	0	冬季休業	授業

	月	日	1校時	2校時	3校時	授業	行事	振　替	備　考
登別中	9	19	全力だしな祭	全力だしな祭	全力だしな祭	3	0	冬季休業	学校祭代替行事
	10	24	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	キャリア教育（キャリアパスポート）、講話（生き方について）
	11	14	授業	携帯スマホ安全教室	携帯スマホ安全教室	3	0	冬季休業	外部講師による携帯スマホ安全教室
	12	12	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	各学年代表による総合まとめ発表会、2年生による熊舞披露
登別小	8	29	授業・2年収穫祭	授業・2年収穫祭 行事5.6年（OMB）	授業・2年収穫祭 行事5.6年（OMB）	3・(1)	0・(2)	冬季休業	5.6年OMB練習　（5.6年OMB地獄祭り参加 ：時数外） 2年ふるさと農園収穫祭
	11	7	授業	スマホ安全教室（低） 道徳（高）	スマホ安全教室（高） 道徳（低）	2	1	冬季休業	ふれあいDAY（地域参観日）　全学級道徳科公開 携帯スマホ安全教室（保護者多数参加）
	11	28	授業	授業	OMB定期演奏会	2	1	冬季休業	OMB定期演奏会

	月	日	1校時	2校時	3校時	授業	行事	振　替	備　考
緑陽中	9	12	避難訓練	避難訓練	避難訓練	2	1	冬季休業	小中一貫　避難訓練
	10	24	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	通常授業
	1	30	授業	授業	授業	3	0	年度末休	通常授業
青葉小	4	18	授業	授業	授業	3	0	夏季休業	
	9	12	避難訓練（地震津波）	授業	授業	2	1	冬季休業	地域連携避難訓練（青葉地区連合町内会と）三校同時日
	11	7	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	ふれあいデー（中止）
富岸小	7	18	安全教室	授業	授業	3	1	夏季休業	各学年安全教室（1時間）
	9	12	津波対策避難訓練	津波対策避難訓練	学級活動	2	2	夏季休業	小中一貫・地域連携避難訓練（1日防災教室できず）　4時間対応
	11	7	授業	授業	授業	3	0	冬季休業	3時間対応　ふれあいDAY（実施できず）
	11	28	長縄跳記録会・授業	長縄跳記録会・授業	学級活動	3	1	冬季休業	縄跳び記録会（各学年1時間）　4時間対応

○ふれあいウィーク(10/24～11/7 の 2 週間)

11/1「北海道教育の日」に合わせて、平成 16 年から「ふれあいデー」として市民に市内の小中学校を公開してきたが、その取組をさらに発展させ、平成 23 年からは「ふれあいウィーク」として、その時期に学校公開のほかに講演会や懇談会など各種事業の取組を進めている。学校や地域、保護者が、登別の教育のあり方について考えを深め合う期間として位置付ける。

・学校公開（保護者や地域の方、市民への公開）　10/24 か 11/7 のどちらかで実施する予定だったが、コロナ感染拡大状況を考慮し、地域公開は中止とした。

※　授業や活動の内容は「土曜授業取組状況」を参照。

・中学校吹奏楽部定期演奏会　10/18 登別中　10/25 幌別中　11/1 緑陽中

・特別支援学級作品展　10/17～23　市民会館 1 F 廊下

○教育フォーラム　隔年実施のため、令和 2 年度は未実施(令和 3 年度は実施予定)。

評　価	コミュニティ・スクールを導入し 7 年が経過した。各学校では、放課後や長期休業中の学習サポート、交通安全の見守り活動、地域合同避難訓練、地域の方を招いての授業、地域交流まつりなど、これまでの学校支援地域本部事業を継続、発展させ、地域の実情に応じた特色ある教育活動を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、事業や活動の縮小・中止を余儀なくされた。また、小中合同あるいは幼保小中合同で学校運営協議会を開催する地区が増え、コミュニティ・スクールと小中一貫教育の親和性を生かした学校づくりが見られるようになってきたものの、同様の理由により、会議を書面形式にしたり、中止したりする地区が多く見られた。
今後の方向性	本市においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働して、将来を担う子どもたちの育成に努めてきた。 今後においても、更なるコーディネート機能の充実を図るとともに、学校を核とした多様な地域学校協働活動が展開されるよう努める。

項　目	**2　幼保・小・中連携　小中一貫教育　キャリア教育**
点検内容	幼保・小・中連携については、今年度より北海道教育委員会による「幼児教育と小学校教育の接続の円滑化モデル事業」の指定を受け、相互参観や合同研修、スタートカリキュラムの作成などの取組を進めてきたので、推進リーダーを中心にこれまでの取組を効果的に反映させ、引き続き事業の推進に努めていく。 小中一貫教育については、各中学校区において、義務教育九年間の系統性・連続性に配慮した創意ある教育活動が展開されているので、取組の成果と課題を検証するとともに、実践交流の充実が図られるよう支援していく。 また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校と連携するとともに、職場訪問や職業体験を通して地元への愛着や理解を深め、児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた取組を推進する。

取組状況

○令和2年度の幼稚園・保育所と小・中学校の連携事業

事　　案	発 信 元	内　　容
流行性疾病による学級閉鎖	学教G	・学校名・学年・罹患率・欠席者数
気象警報等による緊急対応	学教G･学校	・暴風雨雪警報・注意報発令時：市、学校区の対応

不審者情報・凶悪事件	社教G･学校	・警察・胆振教育局からの情報：市、学校区の対応
行事案内	学校	・年間行事予定・学芸会･運動会･卒入学式案内
学校だより	学校	・月１回作成　１部配布
教育ふれあいウィーク案内	学教G	・事業一覧(掲示用)　コロナ禍のため中止
教育委員会広報	学教G	・教育行政全般の活動報告

○日常の情報交流、指導者・子どもの交流について

幼保･小･中 連携協議会	幼保小中	8/21　登別市幼保・小・中連携協議会 出席：幼稚園代表･保育所代表･校長会代表･教育委員会 内容：平成 31(令和元)年度の取組と今後の推進について
	幼保小	11/19　実務担当者会議　実施予定　→中止 ～幼稚園４名 保育所４名 小学校８名 子育てＧ２名 市教委６名 就学前、就学後の実態や課題について情報交流・意見交換を実施。 3/25･26「幼･保･小」実務担当者会議(合同引き継ぎ会) 出席：白菊幼稚園４名　リリー文化幼稚園２名　コロポックルの森３名 カトリック幼稚園２名　室蘭の幼稚園他８園 11 名　市内保育所８名 市内小学校 25 名 個々における就学前の実態やアレルギー等配慮が必要な事柄、就学後予想される課題について、情報や意見の交換を実施。
１日体験入学	小学校	1～2 月　新１年生と現１年生の交流を生活科の授業体験などを通して実施 コロナ禍により、保護者説明会のみの学校、新１年生への説明･校内見学を行い交流活動は行わない学校が多かった。
	登別中	11/12　小６年生対象で体験授業
	幌別中	2/22･25(2/1 実施予定であったが中止) 代替として、2 校における出前授業と中学校生活に関する説明会を実施
	西陵中	1/19　校長と教務主任による小６年生対象の分散説明会を実施
	緑陽中	11/5　小６年生対象で学校の概要説明 コロナ禍のため授業参観は中止、廊下からの授業見学
	鷲別中	10/27　新入生体験入学　学校の概要説明、校舎見学
交流活動	西陵中校区	小中合同挨拶運動(朝、本校生徒会と幌西児童会)→中止 出前授業　→中止 小中交流会(両校教員による授業参観と研究協議)→中止 年４回定期テスト前、小中同時に家庭学習強化週間設定
	幌西小	年間、授業参観や校内研修に合わせた相互の授業見学　→中止 9/28　登別明日生徒による英語学習サポート
	鷲別中校区	10/19　カトリック幼稚園園児　学習発表会観覧　→中止 8/27　小中教員交流会(互助会レク前)→中止 11/30　幼児児童生徒交流(餅つき 消防署見学 ギター・マンドリン部演奏) →中止 1/8　鷲別中学校区教頭・教務主任会議
	鷲別小	2/21　鷲別中公開研究会(研修交流)年間 校内研修に合わせた授業交流 →中止 10/12　鷲別保育所とリリー文化幼稚園児、学芸会観覧　→中止 10/27　鷲別中学体験入学(6 年生)

		2/25　鷲別中学校教諭による出前授業(6 年生対象：理科･社会)
	若草小	3/16　リリー文化幼稚園児と 1 年生の交流
		2/24　鷲別保育所とリリー文化幼稚園児と交流学習
	幌別中校区	2/24　 6 年生出前授業(社会･理科)
		7/14　小中合同研修会(新 1 年生交流会)幌別小教諭 2 名、幌別東小教諭 2 名、幌別中教諭 6 名が新 1 年生の学校生活について交流
	幌別中	【再掲】2/22･25 体験入学の代替として、2 校における出前授業(東小：理科 幌小：数学)と中学校生活に関する説明会を実施
	幌別小	10/29　カトリック幼稚園年長児と 1 年生の交流(ハロウィン)
		12/8　カトリック幼稚園年長児と 1 年生の交流(秋のたからものランド)
		2/25　出前授業(数学授業体験･ガイダンス　幌中教諭来校)
	幌東小	運動会総練習時、幌東保育所の幼児と登別地獄囃子を舞踊　→中止
		10/10　学習発表会に東保育所幼児招待　→中止
		11/26　1 年生生活科「秋の宝物ランド」東保育所幼児招待　→中止
	登別中	登別小での吹奏楽部の演奏　ＯＭＢの楽器指導　→中止
	登別小	10/17･18　登別中生徒の職業体験受け入れ　→中止
		11/19　コロポックル年長　1･2 年生活科に参加
	緑陽中	2/9･12　青葉小･富岸小で 6 年生対象に社会科・数学科・英語の出前授業実施
		緑陽中学校区三校交流会(分科会･授業交流)→中止
	富岸小	2/12　出前授業(英語･社会)
		3 月　6 年生合唱指導　→中止
		11/5　6 年緑陽中学校 1 日体験入学
	青葉小	2/9　出前授業(社会･数学)
小中合同 避難訓練	幌別中地区	9/28　幌東小･幌別中合同で津波対策避難訓練実施 小学生は中学生や地域の方に見守られながら避難所に向かう。東小児童はその後鉄南連合町内会の炊き出し訓練に参加。　→中止
	西陵中校区	8/29　小中合同津波避難訓練
	緑陽中校区	9/12　小中一貫･地域連携津波避難訓練
	鷲別中校区	6/21　鷲中･鷲小で避難訓練同日開催　→中止
		10/31　鷲別保育所避難訓練(鷲別小屋上へ避難)→中止
	登別中地区	登別小･コロポックルの森と避難訓練同日開催　→中止
家庭科 ～保育体験	鷲別中	9/26～10/11　3 年生　鷲別保育所で保育体験　→中止
	登別中	3 年 コロポックルの森 保育実習　→中止
	緑陽中	10/16～11/5　3 年生 保育実習　→中止
総合的な学習 の時間	登別中	職業体験 2 年生　コロポックルの森･登別小他、校区内事業所　→中止
	幌別中	10/16　職業体験　→中止
		(代替)1/15　工学院を訪問、職業の実際に触れる機会を設けた(7 コース)
	西陵中	10/29　職業体験 2 年生　市内幼稚園・保育所で体験　→中止
	鷲別中	10/21　地域探索 1 年生　 ※職業体験 2 年生　→中止
	緑陽中	10/11　職業体験 2 年生　校区事業所中心　→中止
幼稚園・保育所 視察	幌別小	10/19　1 年担任　カトリック幼稚園視察
	幌西小	教頭･教務主任･特別支援教育コーディネーターで、2/21 白菊幼稚園を視察
		12/14　白菊幼稚園発表会を教頭のみ参観

		カトリック幼稚園及び富士保育所の視察・懇談　→全て中止
	幌東小	11/21　校長が東保育所発表会を参観　→中止
	登別小	コロポックルの森　入学式、発表会、参観日等に視察
	鷲別小	保育所参観時に視察　保育所発表会(鷲別･栄町)参観　→中止
	富岸小	4/22　白菊幼稚園学校訪問(浅井先生来校)→中止
	登別中	保育実習や職業体験の時に合わせてコロポックルの森を視察　→中止
	鷲別中	保育体験の時に合わせて鷲別保育所を視察　→中止
	緑陽中	保育体験の時に合わせて富岸子育て広場を視察　→中止
	幌別中	職業体験に合わせて白雪幼稚園、幌別東保育所を視察　→中止
		年に２回、東保育所の避難訓練場所として、敷地内を提供している。
	西陵中	職業体験に合わせて市内幼稚園や保育所を視察　→中止

○小中一貫した教育の推進

市内全中学校区で推進協議会の立ち上げ～めざす子ども像の検討、取組内容の検討、企画、実行。

中学校区内で合同研修会開催～校区内の教職員で目的や課題の共有。具体的な取組内容の確認。

西陵中･緑陽中･幌別中校区では、学校評価の項目を一部統一。成果と課題の共有化を図る。

11 月の校長会教頭会合同研修会～各校の実践交流。※令和２年度は実施せず。

○キャリア教育

・キャリア教育懇談会

期　日　　令和２年 11 月 19 日

場　所　　登別市民会館　２階小会議室

参加者　　日本工学院北海道専門学校校長・副校長、北海道登別青嶺高等学校校長
登別市校長会会長・副会長
（市教委から）教育長・教育部長・教育部参与・教育部次長
学校教育グループ総括主幹・学務主幹

内　容　　説明「自分らしい生き方を実現させるために」（教育部参与から）
取組の交流（小学校・中学校・高等学校・専門学校から）
意見交流（ともに進めることができる取組について）

・キャリア教育実務担当者会議

1～2 月に開催の予定だったが、日程の折り合いがつかず、開催を見合わせた。
（令和３年度は開催を予定）

評　価	幼保・小・中連携協議会の発足から８年が経過した。令和２年度においても、実務者による協議・研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止することとした。 しかしながら、新入学児童が円滑に学校生活をスタートできるよう幼稚園・保育所・小学校の担当者が就学に向けてきめ細やかな引継ぎを行うことは必要であることから、担当者同士により、直接、児童の様子等について引継ぎを行った。
今後の方向性	小中一貫教育については、「登別市小中一貫教育基本方針」に基づき、９年間の円滑な接続を図ることで子どもたち一人一人の良さを大切にした指導を継続し、中１ギャップ問題の解消や未然防止に努める。 幼保小連携については、昨年度まで北海道教育委員会の研究指定を受けて取り組んできたスタートカリキュラムの効果的な活用や教育課程の見直しを進めるなど、引き続き円滑な接続が図られるよう支援していく。

	また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校との連携・協働により、基礎的・汎用的能力を育む取組を推進するとともに、地域企業や事業所の協力を得た職場体験などを通して、地域に愛着を持ち、地域に貢献する人材の育成に努める。

項　目	3　学力の向上　学校図書館
点検内容	学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果から、引き続き算数・数学に課題がみられるので、登別市教育課程課題検討委員会における無回答率や誤答の実態把握、分析結果を活用し、個に応じた指導や授業改善など、各学校における教育実践の充実が図られるよう支援していく。 また、学校図書館については、学校司書・司書教諭・図書ボランティアが中心となり、小・中学校が連携した取組や児童・生徒が主体的に取り組む図書委員会の活動など、さらなる読書活動の充実が図られるよう促していく。

取組状況

○全国学力･学習状況調査（対象：市内小６年生・中３年生）

令和２年度は未実施。各学校において自校採点を行い、授業改善に役立てた。

○各学校の取組に対する支援

①教育課程課題検討委員会

参加者：校長会研修担当、全小中学校教頭、教務主任、学力向上・研修担当等の教諭

第１回～7 月１日

コロナウイルスまん延による休校に伴う教育課程上の課題など、各学校における課題を共有し、今後の教育課程の改善実施に結び付けることを目的とした。

第２回～1 月 22 日　※コロナ感染拡大により書面会議とした。

各学校における今年度実施した教育課程上の課題や成果などを共有し、次年度に向けての改善実施に向けることを目的とした。

②学習支援専門員の配置と学校支援

・配置　教育指導室に主任学習指導員・学習指導員の２名を配置。

・取組　４月　全国学力・学習状況調査の実施に向けた「心構え」と「鬼っ子チャレンジテストはじまり号・復習問題（算数・数学）」の作成、及び、各小中学校への配布

放課後学習用教材「鬼っ子チャレンジテスト」小学校用（4～6 年生）の改善と基本問題、ヒントカード、ドリルや繰り返し問題等の作成

5～7 月　夏休み学習用「鬼っ子チャレンジテスト」1～6 年生（1 学期分）の作成と、教育委員会ホームページへのアップ

２学期～　放課後学習の実施（鷲別小・若草小・富岸小・青葉小・幌西小・幌別小）

全国学力・学習状況調査結果の分析等　チャレンジ問題への反映

冬休み学習用「鬼っ子チャレンジテスト」1～6 年生（2 学期分）の作成と教育委員会ホームページへのアップ

３学期～　放課後学習の実施（鷲別小・若草小・富岸小・青葉小・幌西小・幌別小）

登別市児童生徒の課題を踏まえた、次年度に向けた学習教材の改善等

春休み学習用「鬼っ子チャレンジテスト」1～6 年生（3 学期分）の作成と教育委員会ホームページへのアップ

令和３年度「全国学力・学習状況調査」実施に向けた「鬼っ子チャレンジテストはじまり号」の作成

○小学校放課後学習実施状況

今年度は、新型コロナウィルス感染拡大による一斉臨時休業等により、教育活動が制限される厳しい状況下で当初の計画を大きく変更し，２学期より実施された。

富岸小学校　予定９回　→　実施５回　　若草小学校　予定１２回　→　実施７回
幌別小学校　予定１２回　→　実施９回　　幌別西小学校　予定１４回　→　実施９回
鷲別小学校　予定１２回　→　実施６回　　青葉小学校　予定９回　→　実施５回
登別小学校　予定１１回　→　実施０回　　幌別東小学校　予定５回　→　実施０回

- ◆ 実施校数　予定　小学校８校　→　実施６校
- ◆ 指導者数　予定　90 人　→　58 人
- ◆ 実施回数　予定　84 回　→　実施 41 回
- ◆ 登録児童数　第４学年 13 名　第５学年 67 名　第６学年 78 名　合計 158 名
- ◆ 参加延べ人数　第４学年 86 名　第５学年 358 名　第６学年 448 名　合計 892 名

【登録児童生徒数・経年比較】

学校名	若草小			登別小		富岸小		幌別小		幌別東小			幌別西小		
学年	4年	５年	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
H26	-	23	16	16	23	24	21	22	11	-	-	-	-	-	-
H27	-	19	17	25	18	22	38	20	25	15	12	14	14	9	10
H28	-	22	11	11	20	16	23	26	15	12	15	12	13	11	5
H29	-	11	8	23	14	43	11	16	9	-	-	-	14	6	8
H30	16	10	4	18	13	32	19	9	11	-	-	-	12	13	6
R元	15	14	6	25	13	40	61	17	8	-	-	-	14	10	7
Ｒ２	7	5	13	-	-	19	24	7	10	-	-	-	6	10	4

学校名	鷲別小		青葉小	
学年	5年	6年	5年	6年
H26	-	-	-	-
H27	-	-	-	-
H28	26	35	24	9
H29	27	28	27	30
H30	16	16	23	29
R元	17	12	22	26
Ｒ２	9	13	17	14

【成果】

放課後学習の場においては，「鬼っ子チャレンジテスト」の問題に取り組むことによって，学習内容の定着や習熟が一層図られるとともに，教室の一斉指導では習得に課題がある児童や理解に時間を要する児童に対して，きめ細かな個に応じた指導が展開され，参加児童個々に成果を上げている。

◇放課後学習に参加する児童の中には，小学校の中学年の段階で内容が十分身に付かない状況が始まり，わからないことが積み重なっているように見受けられる状況があった。個別指導が充実することによって改善できることが多いようであった。

◇放課後学習においては，指導員の個別指導で，児童の思考の流れや児童の反応に応じた会話等を通し，児童にとって問題を解く体験を積むことが可能となっており，成果につながっている。学習指導の経験の少ない指導員さんたちの事前の教材研究等，見えないところでの努力が大変大きいものと思われる。

◇自ら希望して参加している児童においては，短時間であってもじっくり考えたり他と競ったりすることなく自分らしい学びを実現する機会となっており，個々の充実感や達成感を高めている。

◇児童は，身近に生活している地域の方々からやさしく声をかけられ，直接指導を受ける体験を通して，地域の中で生活している実感，自分のために時間や知恵，心を向けてくださることへの感謝，知り合いが増える中で親近感等が培われている。

【課題】

放課後学習の実施校に対しては，「鬼っ子チャレンジテスト」の同じ問題を使用して指導していることから，各学校の児童の課題解決の実態に特徴が現れており，対象児童の違いはあるものの指導の結果として学校による取り組み方の違いがうかがわれ，次のような課題が見られた。

◆関心・意欲・態度の課題として

放課後学習に対する考え方について，参加児童に対し理解を十分促していない場合，参加児童は「やらされている」「めんどう」という気持ちが前提にあり，学習態度に現れたり、習得状況にも影響を与えたりしていることがあった。

◆基本的な生活習慣や学習規律の課題として

挨拶，話の聴き方，指示の受け方，文字の書き方，計算の仕方，学習道具の使い方，問題への向かい方等，日常の指導の結果が子どもの姿を通して課題として現れることがあった。

◆問題を解く技能の課題について

児童は、問題文を読んだ後，求められていることについて深く考えることなく，問題文にある数字を拾い出してなんとなく式を作成する傾向が見られる。また，一読して難しそうだと判断してもう自力で解くことを諦めてしまうことがある。

○各学校の朝読書と図書ボランティアなどの活動状況

学校名	朝読書	図書ボランティア	その他
幌別小	毎朝10分	読み聞かせ、貸出返却、ＡＬＴ読み聞かせ 図書館掲示	図書委員による読み聞かせ
幌西小	毎朝10分	読み聞かせ、環境整備、貸出返却	図書だよりの発行
鷲別小	月～水20分	環境整備、新刊紹介、図書便り発行 学級文庫の設置、児童作品の展示	図書委員によるおすすめの本 コンクール、読書啓発活動
登別小	火金15分	読み聞かせ(年間7回実施)	図書館の環境整備
富岸小	火曜10分	月2回程度、朝の読み聞かせ(6月から実施)	図書館環境整備
幌東小	毎朝10分	読み聞かせ、お話会、飾り付け	読書の木、目標設定
若草小	月金10分	読み聞かせ、環境整備、新刊紹介	図書委員による読み聞かせ 読書の木
青葉小	月木10分	飾付･環境整備、朝の読み聞かせ	図書ボランティアによる読み聞かせ
幌別中	毎朝10分	週2回程度、読み聞かせ、貸出返却、環境整備 新刊紹介、ﾃｰﾏｺｰﾅｰ･学級文庫入れ替え	委員会補助、図書通信
鷲別中	毎朝10分	3年生への読み聞かせ(3/10)	図書館環境整備
登別中	毎朝10分	活動なし	委員会による運営 ビブリオバトル実施(2回)
西陵中	毎朝10分	活動なし	学級文庫の入替 ペーパービブリオバトル実施
緑陽中	毎朝10分	週1回環境整備、読書啓発	図書委員会による学級文庫の入替、新刊の紹介

○学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議

※令和２年度はコロナウイルス感染症対策のため中止

○登別市学校司書連絡会議～年４回実施

１ ねらい　市内小学校に配置されている学校司書の連携を図り、互いの知識を共有することにより、さらに有効な学校図書館整備の充実を図る。

２ 内　容　活動内容の交流・図書館だよりなどの意見交換・本の整理や選書に関する情報交換・読み聞かせに関する情報交換　その他

○長期休業中の学校図書館の開放～小学校のみ

読書活動推進の一環で、休業中の日時を設定し児童に対し学校司書による貸し出し業務等を行い、併せてＡＬＴによる英語本の読み聞かせや英語を使用したアクティビティ等のイベントを実施しているが、令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、長期休業が短縮されたため、実施中止。

＜参考＞利用状況（令和元年度）～夏休み 162 名　貸出冊数 207 冊　ALT イベント参加人数 180 名

冬休み 114 名　貸出冊数 136 冊　ALT イベント参加人数 129 名

○小学校への団体貸出

「わくわく文庫」を除籍処理し、市内小学校全８校に１学年２コンテナ委譲。３学級以上は追加。

実績：79 学級に貸し出し。（実施率 100％）　提供冊数 3,465 冊

○小・中学生の読書感想文・感想画コンクール

令和２年度はコロナウイルス感染症対策のため中止

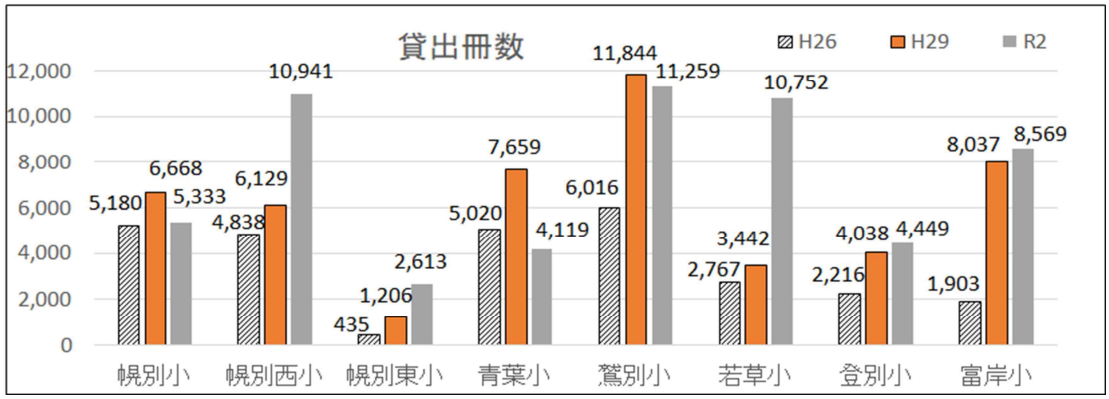
＜参考＞令和元年度　応募件数：感想文 679 作品（入選 49 作品）・感想画 322 作品（入選 26 作品）

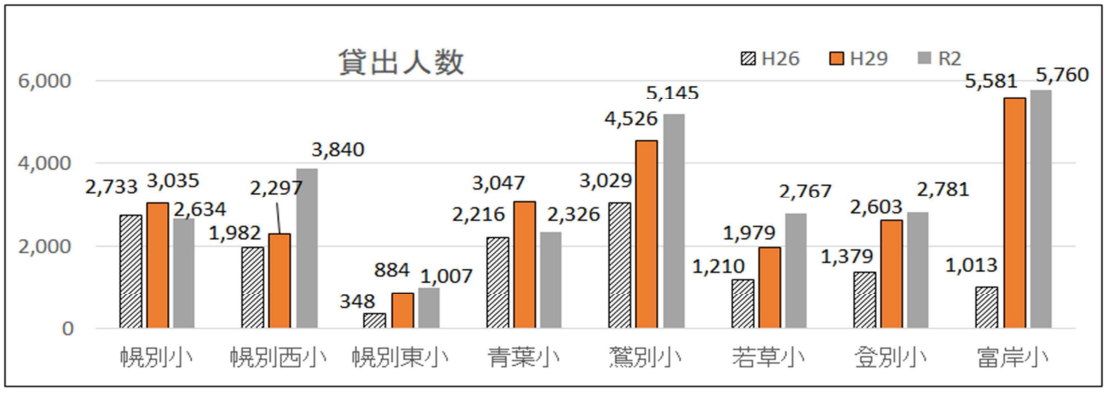
○学校図書館担当職員（学校司書）の小学校への配置

図書館司書等の有資格者を段階的に２校に１人の割合で配置した。

・H25～H26 年度　２人を４校に配置（幌別西小、青葉小、鷲別小、若草小）

・H27 年度以降　４人を８校に配置（上記に加え、登別小、幌別東小、幌別小、富岸小）





評　価	令和２年度における全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症にかかるその後の状況及び学校教育への影響等を考慮し、中止することとなった。 しかしながら、北海道内においては、課題である児童生徒の生活習慣・学習習慣の状況について、新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響も含めて把握することとし、市内小中学校において児童生徒質問紙調査の実施を行ったところである。
今後の方向性	確かな学力の向上については、課題の見られる小学校算数科に焦点をあて、教育指導専門員が地域の方々の協力を得ながら、放課後の学習機会として「鬼っ子算数教室」を開催するとともに、家庭学習の充実が図られるよう、ＩＣＴを活用した教材を提供するなど、学習内容の定着と学習習慣の確立に努める。

項　目	４　英語教育
点検内容	英語教育については、小学校学習指導要領における外国語活動や外国語科に対応するためこれまでの移行期間中に標準時数の確保や教員の指導力の向上に取り組んできた。 今後も、児童・生徒の英語学習に対する関心・意欲が向上するよう、小学校四年生全員の英検ジュニア受験、中学校生徒に対する英検三級検定料の半額補助を実施するとともに、外国語指導助手の活用や環境整備に努め、コミュニケーションの素地・基礎となる資質・能力の育成を図る。

取組状況

- 「登別市小中学校英語教育推進プログラム」の内容を基に、小学校では新学習指導要領の全面実施を見据えて取り組んだ北海道教育委員会の小学校外国語活動巡回指導教員研修事業の成果を踏まえ、教員個々が努力を重ねて継続して授業実践に取り組み、授業力を高めることができた。
  中学校においても、円滑な学校間接続の観点から、中学校の外国語科教員の系統的指導に対する意識化が図られるとともに、従前より本市で取り組む小中一貫教育の機能を最大限活用し、専門性を発揮した授業が行われ、義務教育９年間を見通した英語教育が一体的に展開された。
- ＡＬＴの派遣（4名配置）～新型コロナウィルスの蔓延のため新ＡＬＴの来日が遅れているため当初予定の派遣回数を下回った。今後、4名が配置され次第、ネイティブな英語に触れる機会を創出するため各学校に週１回以上派遣し、小学校の外国語活動(全学年)、中学校の英語の授業で教員とのＴＴ形態による指導を行う。
- 小学校１・２年では、生活科等で年間 10 時間程度、国際理解教育を行った。
  小学校への年間派遣回数～371 回(昨年度 439 回)　中学校への年間派遣回数～232 回(昨年度 272 回)

評　価	令和２年度から小学校外国語科が本格実施となった。引き続き、小学校教員の英語力・指導力向上を図るため、各校の校内研修や小中一貫教育を生かした中学校区での教育課程や指導法の交流など、指導力の向上につながる機会を設定することができた。 今後も、学校の組織的な研修体制の構築、ＡＬＴとの積極的な指導経験の蓄積など、取組の充実を図る必要がある。
今後の方向性	英語教育については、引き続き小学校四年生全員の英検ジュニア受験や中学校生徒に対する英検３級検定料の半額補助を実施し、児童生徒の英語学習に対する関心・意欲の向上や実用的な英語力の強化に努める。 また、外国語指導助手を活用し、異文化への理解とコミュニケーション能力の育成を図るため、小学校の早い段階から英語に触れる環境づくりを進める。

項　目	5　教職員の指導力の向上
点検内容	教職員の指導力の向上については、登別市教育実践研究奨励校を指定し、各校の研究・研修活動を支援するとともに、北海道教育委員会が指定する「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の在り方を研究していく。 また、学校における働き方改革については、勤務時間の管理や業務の効率化、部活動の適切な活動時間と休養日の設定、部活動指導員の配置を進めるなど、教員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務することができる環境の整備に努めていく。

取組状況

○登別市教育実践研究奨励校

学校名	領域･教科	研　究　主　題	年度
幌別小	学習指導	自ら問いかけ、考えを深める子の育成 ～数学的な見方・考え方を働かせ、主体的に考える算数科の授業の在り方～	1･2
幌別西小	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～児童が学びを実感できる学習活動の工夫をとおして～	1･2
青葉小	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～対話を通して考えを深め、伝え合う力をはぐくむ～	1･2
鷲別小	学習指導	意欲をもち、進んで学び続ける子の育成 ～一人一人が学びを実感できる授業づくり～	1･2
若草小	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～系統的に学びを積み上げる国語の授業を通して～	2･3
登別小	学習指導	確かな読みの力を身に付け、言葉で豊かに表現する子どもの育成 ～「言葉による見方・考え方」を育む授業づくりを通して～	2･3
登別中	学習指導	自己の課題を見つけ、乗り越えていく力を持った生徒の育成 ～協働的な学習を通して～	2･3
緑陽中	学習指導	主体的・対話的に学ぶ生徒の育成 ～学びがわかり深まる学習指導の工夫・改善をとおして～	2･3

○地域連携研修事業１　主体校：幌別小学校　連携校：胆振管内全小・中学校

・主体校が取り組んだ研修・研究課題

校内研修の充実やメンター研修を含めた人材育成、専科教員による効果的な指導の在り方の追求を軸にして学校改善に取り組んだ。

校内研修では、昨年度から２か年の研修の窓口となる教科を「算数科」に絞り、主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を目指し、低・中・高・特支のチーム研修を主体とした実践を積み重ねてきた。特に今年度はチームごとに児童の算数科の学習状況から「目指す授業像」を設定し、授業像を意識した日常的な実践の積み重ねを推進してきた。

若手教員等の人材育成では、各学年の学級担任の組み合わせをミドルリーダーと若手教員の組み合わせとし、学級づくりを基盤に、教材研究や発問、板書等の指導技術を土台にした授業力向上を推進するとともに、若手教員自らが課題をもちミドル層教員に学ぶ、メンター研修の更なる充実を図った。

専科教員による効果的な指導では、5･6 年外国語科と 5･6 年理科に中学校免許をもつ教員による指導を実施。専門的な指導を受けることで、児童の関心意欲を高めるとともに、教科の学力向上につなげることができた。

・視察研修

10/30　旭川市立大有小学校　第 53 回教育実践研究発表会（若林教諭）

11/20　苫小牧明野中学校
「小・中・高等学校英語教育支援事業における小・中学校、高等学校合同研修会」（吉井教諭）

・連携校への還元
【学校公開】
2/5　　登別市立幌別小学校・幌別西小学校合同学校公開　場所：幌別小
⇒中止（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）
【学校公開以外】
3/23　胆振教育局チャンネル　Web 研修会（外国語科指導の充実）　（吉井教諭講師）
【学校力地域協議会】
9/23　令和２年度学校力向上に関する総合実践事業　第１回登別市地域協議会
12/28　令和２年度学校力向上に関する総合実践事業　第２回登別市地域協議会
「外国語専科指導の実際」（吉井教諭）
3/4　　令和２年度学校力向上に関する総合実践事業　第３回登別市地域協議会
「校内研修について」（若林教諭）
「外国語専科指導の成果と課題」（吉井教諭）

○学校力向上に関する総合実践事業実施報告書(概要)　実践指定校～幌別小学校

	具体的取組内容	実施内容及び成果	到達目標の結果
学校マネジメント	客観的な数値目標の設定と学校評価と連動したマネジメントサイクルの確立 ○全国学力・学習状況調査、CRT 検査の結果分析に基づく授業改善	○全国学力学習状況調査については、自校の昨年度のデータと比較分析を行い、改善点の共有を図った。また、研修では問題分析を行い、各学年で身に付けなければならない内容を確認し、授業改善に生かした。	○学校評価（内部評価）の肯定的回答を 80%以上 ⇒授業改善に係る内部評価 80.0%
人材育成	日常実践から課題を洗い出す課題解決型研修の推進 ○低・中・高・特支によるチーム研修の充実	○コロナ禍において低中高の各チーム１本の授業公開にとどまった。次年度は、ICT 活用などのあらゆる授業公開の形を試行しながら、全教員年1回以上の授業公開を実現する。	○全教員の年１回以上の授業公開 ⇒全学級１回以上の授業公開はできなかった。 ○学校評価（内部評価）の肯定的回答を 80%以上 ⇒チーム研修を中心とした課題解決型の研究推進体制内部評価100%
	○年間を通じた管理職と教職員の面談による目標や課題意識、悩みの共有及び協働による課題解決	○教職員一人一人の課題や悩み等について面談や相談を実施した。後日のフォローも含め、言葉掛けを多く行うことで、教職員の悩みや課題の解決につながり、安心して仕事ができる職場環境づくりを進められた。	○学校評価（内部評価）の肯定的回答を 90%以上 ⇒学校力向上に向けたチーム力を生かした効果的な実践 92% ⇒年間を通じた管理職面談一人当たり３回以上実施
教育課程・指導方法等	小学校高学年における教科担任制を実施 ○教科担任と学級担任による T.T 指導で、きめ細かな指導と楽しく分かりやすい授業づくりを行う。	○5･6年の理科、外国語科で専科教員による指導を実施。専門的な指導を展開することで、児童の学力や学習意欲の向上が見られた。	○学校評価（内部評価）の肯定的回答を 80%以上 ⇒教科担任制に係る内部評価 88.0%

地域・家庭との連携	コミュニティ・スクールによる学校運営方針の共有 ○グランドデザイン等により、学校教育目標及び目指す子ども像の共有を図り、地域とともにある学校の実現に向けた意見交換の機会の設定	○学校運営協議会やPTA役員会を通じて、グランドデザイン等について広く意見をいただき、学校経営に反映することができた。	○学校評価（内部評価）の肯定的回答を80%以上 ○保護者アンケートの肯定的回答を80%以上 ⇒今年度CSに係る行事等未実施のため、アンケートなし

○地域連携研修事業２　主体校：幌別西小学校　　連携校：胆振管内全小中学校

・主体校が取り組んだ研修・研究課題

学校マネジメントや人材育成の取組の継続と成果の創出を通して、包括的で持続的な学校改善を目指すために、

①　子供が実感を伴う学びの日常化に向けた校内研修推進による授業づくり

②　「北海道における教員育成指標」を踏まえた人材育成の取組

の2点を中心として継続的に実践を重ねた。

2月9日に「登別市立幌別西小学校・幌別小学校　合同学校公開」を開催し、全体会で校内の人材育成に関わる発表を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

・視察研修

当初の予定では10月に道外視察を予定していたが、北海道独自の警戒ステージが「3」に上がったため、他地域の視察を検討したが、依然として見通しがつかないため、実施を見送った。

・連携校への還元

9/2　全体研修を実施し、近隣校を対象に授業を公開（算数科　4年生）

北海道教育大学名誉教授　相馬一彦氏を招き教育講演会を実施した。校内授業研究会公開授業に係る指導助言と、『算数・数学科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』について講演をいただいた。市内の学校から21名の参加があった。

○学校力向上に関する総合実践事業実施報告書(概要)　実践指定校～幌別西小学校

	具体的取組内容	実施内容及び成果	到達目標の結果
学校マネジメント	○ＳＭＡＲＴに基づき目標を設定し、子どもに身に付けさせたい力を明確化した取組の推進 ・学校経営方針の明示 ・学校経営のグランドデザイン配布により教職員、家庭、地域との目指す子ども像の共有 ・知・徳・体の３観点に基づき、重点化を図る項目の焦点化 ・ＳＭＡＲＴに基づいた成果指標（数値目標）の設定と検証方法の明確化	○成果指標を設定することで、成果や課題を明確にして検証できた。 ○年間４回の家庭学習強調週間を設定し、家庭学習の達成率が80%を超えた。	・標準学力調査において、１２教科中３教科において昨年度より向上した。（２年算数・３年国語・６年国語）１２教科中７教科において昨年度より低下した。１ポイント以上の低下が５教科あったことを謙虚に受け止める必要がある。 ・家庭学習「学年×10分」の達成率78%
	・学校評価の年間２回（７月、12月）実施による改善サイクルの迅速化 ・短期、中・長期間での課題改善を図るとともに、保護者、地域との課題の共有 ・学校関係者評価と連動させた学校改善サイクルの実施 ・チャレンジテストによる定着の確認、補充的な指導（宿題、家庭学習）	○年間２回の学校評価（教員、保護者、児童）を行い、課題点を洗い出して分掌で検討するなど組織的な改善に努めた。 ○挨拶に関わる学校評価は、80%が「よい」と回答。 ○新体力テストについて、目標を全職員で共有し、できる範囲で取り組んだ。 ○短縄１分跳びにおける各学年の記録を１０%以上伸ばす。 ○学力向上プランに基づき、チャレンジテストを実施して結果を分析し、指導の改善に努めた。	・「挨拶がよい」 学校評価ＡＢ合算 保護者評価　87.5% ・新体力テストにおいて、50メートル走は全学年で、５年生は全種目挑戦した。 ・短縄１分間跳びの学級合計回数では、取組をはじめて３か月で目標を達成した。

		○教職員、保護者、児童の評価結果の共通点を分析し、教育活動の改善に努めた。	
	○「北海道アクションプラン」に基づいた勤務時間を意識した働き方の推進 ・ＩＣＴを活用した授業準備の支援 ・教職員がアイディアを出し合い主体的に取り組む教育活動の見直し等の業務改善	○働き方改革に関する教職員アンケートを実施し、業務改善を進めた。	・外国語専科教員の配置、ペーパーレス化の推進、通知表の標記の一部変更など、できるところから改善を行った。
人材育成	○重点の明確化及び学校力向上総合実践事業に基づく計画的な研修の実施 ○初任段階教員研修に関わる重点の共有と具体的な実践 １年次　教科指導力、学級経営力 ２年次　学級経営力、生徒指導力 ３年次　地域との連携・対応力、チーム貢献力 ４年次　自己設定 ○日常的な授業参観とＯＪＴの推進 ○教員育成指標を踏まえた「教員研修計画」の作成	○管理職、一般教職員が授業研、模擬授業等に複数回参加し研修を深めた。 ○校内研修でワークショップ型研修を定期的に実施した。	・校内研修を年間１７回実施 ・授業公開年間５回
	○自校及び実践校の教員を講師としたテーマ別ミニ研修（現職研修）の実施 ○市内実践指定校と連携した学校公開の実施（計画）	○教員一人一人が講師となって「ミニ研修」を進めた。 ○幌別小学校との合同学校公開を当初は計画した。両校の成果の共有と資質向上に努めようとしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施できなかった。	・経験豊富な教員の優れた指導技術を効率よく学ぶ機会を設定した。年間４回実施。 ・幌別小学校と合同学校公開を２月５日に開催予定だったが、実施できなかったため、本校における人材育成に係る実践発表については、市内各学校に書面にて情報提供を行った。
教育課程・指導方法等	■各教科の特質に応じた、見方･考え方を働かせた授業改善 ○全学年による標準学力調査の実施と、その効果的な活用 ○３、４年、５、６年での習熟度別少人数指導（算数科）の実施 ○退職人材活用事業講師による算数科のＴＴ指導の実施 ○日常授業の改善～「見通す」「振り返る」学習活動の重視 ○適切な反復による学習指導を実現するための小中連携による家庭学習強調週間の設定	○標準学力調査の結果を同一集団の経年変化で比較しながら授業改善を検証してきた。	・国語では経年比較で前の学年より高いのは２年生。算数では、３年生のみであった。原因分析と学力の向上が課題である。
	■新学習指導要領の趣旨等を踏まえた学校間の円滑な接続を意識した取組 ○登別市小中一貫教育（連携型）研究実践校として、子どもの学校生活への意欲向上に向けた取組の充実	○小中一貫教育推進協議会で、小中連携の取組の充実について書面で交流した	・西陵中学校区小中一貫教育推進協会は開催できなかったが、その代わりに各学校の取組について紙面交流を行う。

	○小・中学校間の授業参観・交流 ・共通の視点をもった授業参観の実施 ・授業公開への参加、児童生徒の交流 ・子どもの意欲向上を目指した出前授業や乗入れ授業（参観）の実施 ・特別支援学級の相互参観、情報交流及び個別の教育支援計画、指導計画の活用	○「小中で習慣化させたい10項目」「小中共通の学習規律」を日常の授業や学校だより等で周知するとともに、指導の徹底を図った。	
	○小中９年間の学び方についての系統性の相互理解 ア　小中９年間を見通した学習規律の確立及び学習のきまり系統表の活用 イ　校種間の学習指導に関する相互理解 ・授業を介した全体交流会の実施 ・テーマ別協議 ウ　学力調査の課題共有 ・課題検討委員会による共通題領域抽出と改善		・小中共通の家庭学習強調週間の設定４回
	○家庭と連動した望ましい生活習慣形成 ア　学校と家庭で共に子どもたちに習慣化させたい項目の浸透 イ　９年間の連続性を踏まえた家庭学習の習慣化		
	○豊かな心を育む協働実践の試み ア　心の教育の推進 ・道徳科の授業公開、児童生徒に関する交流 イ　小中協働の子ども主体の取組の推進 ・挨拶運動の実施、交通安全標語作り ウ　小中合同難訓練の実施	○小中合同避難訓練は昨年の反省を生かし、内容を充実させることができた。	・合同避難訓練を実施した。
	○学校経営 ア　管理職による学校評価項目の見直し		
地域・家庭との連携	○コミュニティ・スクール事業の全体計画を更新するとともに、学校運営協議会による熟議を通して、学校と学校支援地域本部コーディネーターや教育委員会等との連携による具体的な活動の展開	○学校運営協議会を３回実施し、コミュニティ・スクール事業を推進した。また、そのうち１回は中学校と合同で行った。	・学校運営協議会３回実施
		○地域の青少年育成協議会、ＰＴＡと連携して登下校の見守りを月１回実施し、児童の安全を見守った。	・朝と帰りの見守り活動 朝13回、帰り13回実施
	○学校運営協議会を年間３回開催	○放課後サポート学習には10名のボランティアが集まり、４～６年の２１名の参加児童に算数科の勉強を教えた。	・放課後学習サポート13回実施。出席率トータルで83.0％
	○登下校時の子どもの見守り活動の実施		
	○地域住民による学習ボランティアを組織し、放課後学習サポートの実施	○地域人材を活用した世代間交流、福祉体験授業、アイヌの人たちや文化に関する授業、スキー学習等を実施した。	・５年生、６年生４年生で外部講師招聘した授業を行った。
	○地域の専門家を講師とした体験的な活動の実施 ・参観日の代わりになる家庭、地域と一体となった取組	○９月に予定していた個人懇談を６月に早めた。２月に学習発表集会を行い、１年間の学習の様子を保護者に見てもらう機会を作った。	・１回の実施だったが、２月に学級（学年）懇談会をして、学校の様子をしってもらうことができた。
		○指導部便り、学校便り等で正しい生活リズムやメディアの使いすぎによる問題点の啓発を複数回行った。	

○働き方改革の推進

・「登別市立学校における働き方改革基本方針（平成 30 年 10 月策定・令和 2 年 3 月改定）」に基づき、教員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備に努める。

【基本方針の目標】

教育職員の在校等時間から所定の勤務時間等を減じた時間（いわゆる「時間外勤務」）を 1 か月で 45 時間以内、1 年間で 360 時間以内とする。

【目指す指標】

1 部活動休養日（平日週 1 日・休日週 1 日・学校閉庁日の年間合計＝113 日）を完全に実施している。
2 変形労働時間制を活用している。
3 定時退勤日を月 2 回以上実施している。
4 学校閉庁日を年 9 日以上実施している。　※以上 4 指標は、令和元年度中に達成している。

【主な具体的取組】令和元年度以降に検討または実施したもの（以前から実施済みの取組は除く）

1 教職員の事務負担を軽減する校務支援システムを導入する（令和 4 年度から導入に向けて準備）。
2 給食費については、給食費管理システムを導入する（令和 3 年度から導入開始予定）。
3 部活動指導員を配置する（令和 2 年度は 3 名配置）。
　緑陽中バスケットボール部 1 名、幌別中・西陵中バレーボール部 1 名（他 1 名は未配置）。
4 在校時間を客観的に計測するシステムを導入する（平成 31 年 4 月から記録を開始）。
5 留守番電話の設定（平成 31 年 4 月から対応を開始）

評　価	令和２年度の学校力向上に関する総合実践事業は、令和３年度にスタートする「地域指定」の移行期間として、幌別小学校を中核校、幌別中学校区と西陵中学校区の他の４校を指定校とした。これまでの「学校指定」と同様の事業内容に加えて、小学校高学年での教科担任制の導入に関する研究を行うため、実績のある中堅教諭を配置し、英語科担当として小学校３校を巡回して指導を行った。授業力の高い中堅教諭の指導により、小学校教員の授業力が向上するとともに、授業改善によりコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することで、学校力の総合的な向上を目指した。 登別市教育実践研究奨励校については、８校が指定を受け、各校の研究の経緯や実態に即した研究主題のもと、全校が学習指導をテーマに取り組んだ。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、公開研究会の開催を断念したり、参加対象を市内の教職員に絞ったりする必要があったが、研究紀要の作成・配布により研究の成果を発信するなど、研究の質を高めることができた。
今後の方向性	教職員の指導力の向上については、引き続き登別市教育実践研究奨励校や登別市教育研究会の活動を支援し、主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が着実に実施されるよう促す。また、「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の研究や人材育成など、包括的な学校改善が図られるよう支援する。 さらに、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、引き続き勤務時間の適切な把握や部活動指導員の配置を進めるとともに、給食費の徴収業務の軽減や校務支援システムの導入など、学校における働き方改革を推進する。

項　目	6　情報教育
点検内容	情報教育については、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図るため、国の「GIGAスクール構想」に基づき、校内通信ネットワークを整備するとともに、年次的に児童・生徒一人一台の端末を整備する。 また、各学校の情報教育推進教員を中心に学習ルールの整備や授業実践事例の蓄積を進めるとともに、授業公開や研修会を実施するなど、教員によるICTを活用した授業力向上の取組を促していく。

取組状況

○児童生徒一人一台端末の導入

・導入端末(台数)　Lenovo 300e Chromebook 2019年モデル(3,172台)　5年保証付

・児童生徒及び教職員が学校外に端末を持ち出すことについては、原則禁止としているが、新型コロナウイルス感染症等の影響による長期休業時に家庭への持ち帰りを認めることとする。そのため、各学校がオンライン学習を行うことができるよう、カメラ・マイク(各校4台ずつ×13校)を購入するとともに、就学援助を受給し、通信環境がない世帯に貸し出しができるよう、Wi-Fiルーター(全46台)を購入した。通信料は保護者負担とする(SIMフリー)。

○登別市情報教育推進協議会

・期日　令和3年2月25日

・会場　登別市民会館　中ホール

・参加者　市内小中学校教職員16名、市教委5名

・内容　(1)GIGAスクール構想に係るPC端末について　※上記参照

(2)教育情報データセンターの移行について

室蘭データセンター廃止のため、令和3年6月から、苫小牧ITECソリューションズへ移行予定。

○Google for Education　－　Kickstart Program研修

・期日　令和3年3月23日

・会場　幌別中学校

・講師　G Suite PD　トレーナー　黒瀬大亮　氏

・参加者　市内小中学校教職員24名

・内容　(1)プレ研修

①研修開催の1週間前までに動画コンテンツを視聴

②受講後に10問程度の小テストを実施

③最終テスト受講後に受講完了の報告

(2)コア研修(当日)

教育現場で有効とされるG Suite for Educationの主要サービスを中心に、操作方法、活用のための土台となる情報、アプリの使用方法、共同編集などの操作等について学んだ。

評　価	児童生徒一人一台のパソコン端末及びオンライン学習に必要な機器等を整備するとともに、市内小中学校において、全ての普通教室、一部の特別教室及び体育館に新たに高速大容量の無線通信ネットワークを整備したほか、学習者が使用する一人一台端末用の充電保管庫を整備した。 また、端末を活用した授業をスムーズに行うことを目的として、Google社が行う研修会を開催することができた。

今後の方向性	ＩＣＴの活用については、「１人１台端末」を活用した授業を推進し、児童生徒の特性や学習進度等に応じて、きめ細かな支援ができるよう、登別市情報教育推進協議会と連携し、研究と実践を重ねる。 また、授業改善と学びの充実の観点から、小学校算数科と中学校英語科において指導者用デジタル教科書を導入するとともに、国の「学習者用デジタル教科書実証事業」を活用し、その教育効果を検証していく。

項　目	**7　豊かな心の育成**
点検内容	豊かな心の育成については、これまでも主に総合的な学習の時間や道徳科の授業において、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、実体験を重視した実践を継続してきたので、今後も自然体験や社会体験、ボランティア活動、外部指導者を招いての講演など、各学校の特色ある教育活動を積極的に支援していく。

取組状況

○自然体験や社会体験、ボランティア活動等、豊かな心を育む体験活動

幌別小	通年　全学年による学級園を中心とした栽培活動 3年生による花壇への花の移植、草取り 通年　児童会活動として、リングプル回収、車いすへの交換活動 通年　栄養教諭による食育指導(全学年)→中止 4/12　交通安全青空教室(交通指導員の協力)→中止 4/19　安全指導集会(講師：室蘭警察署員)→中止 5～12月　幌中地区ふるさとふれあい農園活動(地域学校協働本部事業)→中止 5/25 田植え(地域学校協働本部事業)→中止 7/3　2年生 世代間交流　昔の遊び体験　13名の地域の方が協力　→中止 7/4　室蘭警察署見学(4年)→中止 9/20　乗馬体験(地域学校協働本部事業)→中止 9/19　パラマラソン伴走者　中田崇志氏　講話　5年　→中止 9/21　乗馬体験(学校支援地域本部事業)→中止 10/6　ふれあい農園　稲刈り(地域学校協働本部事業)→中止 12/6　5年総合 認知症キッズサポーター養成講座　→中止 12/13　邦楽鑑賞会 6年(登別三曲協会協力)→中止 12/21　ふれあい農園　収穫祭(幌小実施、地域学校協働本部事業)→中止 2/12　スキー学習(5･6年)→中止 9/25　アイヌ文化学習(4年、アイヌ文化活動アドバイザー協力)→中止 7/15　縄文出前講座(6年) 8/25　いじめ防止授業(3年、文化芸術による子供の育成総合事業～芸術家の派遣事業) 9/16　3年登別温泉見学学習 10/20　ふぉれすと出前講座(5年) 10/22,28　3年社会科見学(ドーピー建設工業見学) 10/27　4年総合　見学学習(ウポポイ) 11/9　スマホ･ケータイ安全教室(4～6年)　講師：携帯電話会社担当者 12/15　消防出前講座3年

	12/18　非行防止教室(5･6 年　講師：室蘭警察署) 12/22　租税教室 6 年 12/23　5 年総合　福祉出前講座・あいサポート講座(講師来校) 1/15,22　サンライバ雪遊び(1･2 年) 2/2,5　3 年総合(国際交流　登別･室蘭市内在住の外国人講師による母国の紹介) 2/9　6 年卒業制作(健千窯の協力による陶芸) プログラミング体験学習(工学院)　11/13～3 年、11/20～4 年、12/8～5 年、12/15～6 年
幌西小	学級園等での栽培活動(全学年) 6/22･26　交通安全教室(2～6年) 6/26　交通安全教室(1年) 6/30　縄文出前講座(6年) 7/4　校外班集会･集団下校(全学年) 8/6　キウシト事前学習(2年、ＮＰＯ法人キウシト) 9/8　栄養教諭食育授業(4年) 9/15　キウシト現地学習(2年) 10/13,3/3　ふれあい清掃 10/20　ホームストア見学学習(3年) 10/28　アイヌ文化体験学習 10/29　栄養教諭食育授業(2年) 10/30　アイヌ見学学習(4年)※ウポポイ 11/7　お迎え訓練(災害時を想定した引き渡し訓練) 11/11,1/20　おたすけ清掃 11/17　人権教室(2･4年)　室蘭法務局 12/11･16･17　福祉の学習(総合的な学習、5年) 1/26　租税教室 2/2　英検Jr(4年) 2/18　スキー学習(5･6年)
鷲別小	9/24　食育指導(3年)栄養教諭 10/28　食育指導(4年)栄養教諭 11/6　縄文出前講座(6年) 11/10　見学学習(3年、温泉街･カントレラ･市民会館) 11/30　校外学習(5年、地域危険箇所･ユニバーサルデザイン探し) 12/10　ウポポイ見学(4年) 12/24　租税教室(6年) 2/9･19･24　福祉講座(5年) 2/10　郵便局手紙出し体験(特支) 2/10　思春期保健士兼助産師による性教育(6年) 2/15　スキー学習(5･6年) 【通年】学級園の栽培活動(全学年) 【通年】牛乳パック回収(全学年) 5/14　新入生記念植樹(1年)→中止 5/27　食育指導(3年)栄養教諭　→中止 6/12　道新札響コンサート(5･6 年)→中止 6/27　食育指導(4年)栄養教諭　→中止

	7/8　あさがお育成指導(1年)ソロプチミスト　→中止 7/11　世代間交流(1年)→中止 7/25　ボランティア清掃(下校時の地域のゴミ拾い)児童会が企画(全学年)→中止 9/12　温泉入浴体験(3年)→中止 9/20　ふぉれすと鉱山自然体験学習(2年)→中止 9/24　アイヌ文化講座(4年)→中止 10/12　幼保小交流(学芸会に鷲別保育所とリリー文化幼稚園を招待)→中止 10/21　携帯電話・インターネット安全教室(5・6年)→中止 10/24　アイヌ見学学習(4年)→中止 10/23,11/6･26,12/20　出前福祉講座(5年)登別市社会福祉協議会　→中止 10/26　食育指導(2年)マクドナルド　→中止 10/31　パロマ工場社会科見学(3年)→中止 11/8　邦楽鑑賞会(6年)→中止 12/23　租税教室(6年)→中止 12/25　ひなわしイベント(全校交流)→中止 2/7　郷土資料館での学習(3年)→中止 3/5　砂鉄採集学習(3年)
登別小	ベルマーク・リングプル回収(全学年) 学級園等での栽培活動(全学年) 4/26　交通安全青空教室(1･2･3･5年)登別市交通安全協会　→中止 5/16　ふるさと農園でジャガイモの植え付け(地域ボランティア参加) 5/11　サケの稚魚放流(登別さけ･ます孵化場)地域支援本部事業　→中止 7/6　ＯＭＢ地域行事参加(5･6年)登別わくわく広場　→中止 9/23　認知症キッズサポーター養成講座(5年) 8/29　ふるさと農園収穫祭(2年)地域ボランティア参加 8/24　ＯＭＢ地域行事参加(5.6年)地獄まつり　→中止 7/18　福祉体験学習(4年)登別市社会福祉協議会　→中止 10/1　登別中吹奏楽部演奏会参加(全学年)→中止 10/2　文化芸術巡回公演(6年)→中止 10/3　サケの採卵体験(登別さけ･ますふ化場)地域支援本部事業 10/19　地域行事参加(3年)登別地区チャリティー市民演芸会　→中止 10/26　ものづくり体験教室(モザイクアート教室)地域支援本部事業　→中止 不審者対応訓練・携帯スマホ安全な利用について(全学年)隔年実施…2年度は不実施 3/9　福祉体験学習(3年)登別市社会福祉協議会 12/5　ＯＭＢ定期演奏会5･6年　保護者参観 12/9　人権教室(4年)　人権の花運動感謝状贈呈式(2年) 1/31　豆まき集会～いじめ撲滅や交通安全に対する標語作成(全学年)→中止 2/3　世代間交流(1年)地域ボランティア参加　→中止
富岸小	7/17　縄文出前講座　6年 7/29～8/4　12/16～22　「ケータイ・スマホ3つのルール」強調ウィーク 春～秋　花壇や学年園、生活科での栽培活動 5/21　ふれあい農園活動(畑の先生)2年 通年　玄関ホール･各教室での飼育活動 6･7･11･12月　児童会活動によるいじめ防止のためのあったか富岸小運動

	9/4,10/27　キウシト湿原学習 3年 年2回実施 湿原観察や外来植物の駆除 8/5･25 栄養教諭食育授業6年･2年 9/5　芸術鑑賞(音楽鑑賞)→中止 11/26　ウポポイ見学4年 1/30　PTA祭り　→中止 1/22　租税教室6年 2/2　人権教室4年 2/19　認知症サポーター養成講座5年 2/8･10　スキー学習5年･6年
幌東小	児童会によるリングプルの回収 児童会による「いじめをなくすための取組」 学級園を中心に栽培活動と学級花壇のお世話(5～10月) ふれあい農園　5/25田植え　10/6稲刈り　12/21収穫祭　→中止 郷土芸能「幌別駒踊り」の継承(全校児童)→中止 8～11月に月1回練習　12月幌別地区市民演芸会参加(全校児童) 6/28　1･2年世代間交流「ふれあい集会」(地域お年寄りとの交流)→中止 7/26　校外班による校区のクリーン作戦(清掃活動)→中止 10/7　3年ドーピー建設工業やカント･レラ、地獄谷見学 10/9　4年認知症サポーター授業 11/3　鉄南地区文化祭参加「東小マーチ」披露、全児童の作品展示　→中止
若草小	通年　児童会によるリングプル回収 通年　学級・学年の小動物・昆虫等の飼育を廊下ですることにより他の学年も触れ合える場としている 2学期　児童会による「友達をたくさんつくるには」の活動 ～各自が思いや考えなどを書いた紙を貼り、掲示する(いじめ防止･豊かな心の育成) 7/10　遠足(1～4年) 8/19　町会下校指導：出会いのつどい 月2回程度、1･2年の下校を引率してくれる地域の方々とのふれあいの場 8/25　食育授業(明治製菓　2年) 8/28　食育授業(ヤクルト　3年) 10/22　見学学習(ウポポイ　4年) 10/29　遠隔学習(ウポポイ　4年) 10/26　火育（北海道ＬＰガス協会　5年) 11/13　食育授業(メグミルク　6年) 11/13　食育授業(カルビー　4年) 11/18　食育授業(栄養教諭　1年) 11/18　食育授業(栄養教諭　5年) 2/10　認知症サポーター養成講座(5年) 1/26～28　ふれあい合宿(5年)
青葉小	4/14　たたら製鉄打合せ 6/18　キウシト湿原の会の方による出前授業　4年 7/22　防犯教室　3～6年生(薬物の恐ろしさと犯罪との関係について)講師：室蘭警察署員 8/20,10/22　キウシト湿原での自然体験学習　4年

	9/16　地域の施設見学(ウトナイ野生鳥獣保護センター、トヨタ)5年 9/18　ふれあい農園収穫祭(2年) 10/2　たたら製鉄(5年)室蘭・登別たたらの会指導　出前授業 ⇒　10/28 製鉄体験(火伏せの儀式や鉧出し)　12/4 ケラ渡し　1/20 和釘づくり 11/25　食育(4年) 11/26　日本製鉄出前授業(5年) 1/14　見学学習(4年)白老ウポポイ 1/27　租税教室(6年) 2/5　陶芸指導(6年)「健千窯」 3/2　認知症サポート講習会(5年) 3/4　福祉学習　視覚障害者による出前授業(6年) ⇒　3/11　6年(車いす体験など)出前授業
幌別中	4/15　携帯スマホ安全教室(全学年)→中止 通年　毎定期テスト1週間前より、「携帯・スマホ制限期間」を設定(2小学校とも連携) 社明運動や人権、男女共同参画に係る作文コンクールや書道展への出品 5/17　登別こいのぼりマラソン手伝い　→中止 5/30から　ふれあい農園活動(通年)→中止 ／　ボランティア局地域清掃 7/8　喫煙防止講座(全学年)講師：室蘭警察署員　→中止 7/3･4　救命救急講座(2年生)講師：登別消防署員　→中止 7/17　ＤＢＡ集会(いじめ撲滅集会)→中止 8/24　介護付有料老人ホーム セ・ジュネス祭(ボランティア局手伝い)→中止 9/4　防災意識を高めるための全校講話(学校長) 9/12　地域合同避難訓練　→中止 9/18　総合発表会において行灯披露、その後、市内商業施設や神社、市の周年行事等で展示 9/23　吹奏楽部演奏会「音楽を楽しむ会」(幌別東小、幌別小)→中止 9/28　幌東小との合同避難訓練　→中止 10/21　1年校外学習(フォレスト鉱山における自然体験学習) 10/29～30　2年宿泊研修(ネイパル森における自然体験学習) 11/2　「命の大切さを学ぶ教室」実施（交通死亡事故被害者遺族による講演） 11/6　合唱交流会(各学年) 11/7　ふれあい授業(参観日)～各学年ごとに総合的な学習の時間に係る発表を行う。 11/17　すばる学級校外学習(公共施設の使い方を理解する) 11/25　校内主張大会～それに向けた全校的な取組 11/26･27･30　すばる学級職業体験(すずかけ) 12/16　性の講演会(3年　講師：The Birds and Bees　代表　高村泰子　氏) 2/22　性の講演会(2年　講師：市保健師3名) 10/16　2年職業体験(三愛病院での社会体験)→中止 11/9　命の大切さを学ぶ教室　講師　前田　敏章 氏　→中止 12/14　認知症サポーター養成講座(2年)　講師：登別市地域包括支援センター職員　→中止 12/17　薬物乱用防止講座(全学年)　講師：室蘭警察署員　→中止 12/25　セ･ジュネスもちつきボランティア　ボランティア局訪問　→中止
鷲別中	通年　生徒会によるペットボトルキャップ、書き損じはがきの回収 →　海星学院に届け、ワクチン支援などに協力

	4/10　3年による通学路清掃　※1･2年による通学路清掃(10/1)雨天中止 5月　花壇の土おこし(ボランティア部、特別支援学級)放課後等を活用 6月　花壇の花苗植え(ボランティア部、特別支援学級)放課後等を活用 8/24～9/11　生徒会生活向上週間 各委員会の取組実施 9/23　携帯安全教室(ＮＴＴ) 11/2～11/27　生徒会生活向上週間 各委員会の取組実施 3/5　「いのちのいろえんぴつ」の朗読劇(チームいちばん星)による「命の授業」実施 1年 10/21　地域探索(校区内事業所) 2年 7/21　市観光経済部による講演 11/20　認知症サポーター養成講座(けいあい) 12/22　誕生学講話(性教育) 3年保育実習(鷲別保育所)→中止 ギター･マンドリン部　地域演奏　→中止
登別中	7/22 「わたしたちはこうありたい！登中はこうなりたい！」全校集会 ・わくわく広場祭典　吹奏楽部演奏　中止 8/3　思春期教室(性教育講座)妊婦体験 8/6　校下の清掃奉仕活動(町内クリーン作戦)による地域の環境美化　雨天中止 通年　熊舞保存会による指導 ・ＪＲ登別駅で熊舞披露(外国人観光客向けに英語･中国語で紹介)→中止 ・地獄まつり参加　鬼みこし運行、熊舞披露、吹奏楽演奏実施 外国人観光客に向けて英語や中国語で紹介　→中止 10/10 「Be Smileプロジェクト」熊舞披露 10/22　1年 洞爺湖有珠山ジオパークでの見学学習 ・2年　救急救命講習　→中止 ・3年　幼児とのふれあい体験(コロポックル)→中止 ・2年 職場体験 校区の事業所中心に2日間実施　→中止 11/14　携帯・スマホ安全教室(KDDI) 11/27　土曜授業　1年：職業講話(藤崎一夫氏) 2年：認知症サポーター養成講座(地域包括支援センター) 12/12　熊舞引継ぎ式 12/24　いじめ撲滅集会 3/9　3年　薬物乱用防止教室
西陵中	校区内清掃活動　→中止 7/24　いじめ撲滅集会「いじめ撲滅宣言」策定(生徒会主催) 海星学院生を招いての震災ボランティア報告会(１年学年道徳)→中止 2年生職場体験(代替として職業調べを実施)→中止 10/15　1年生自然体験学習ふぉれすと鉱山 11/10　2年生認知症サポーター養成講座 11/20　1年生ウポポイ見学 1年生職場訪問～新日鉄住金、室蘭工業大学　→中止 2年生思春期教室～誕生学講座　講師：公益財団法人たん学協会認定講師　→中止 生徒会による書き損じはがきやペットボトルキャップ、リングプルの回収　→中止

緑陽中	ボランティア部による富岸子育てひろばでの幼児とのふれあい活動(毎週土曜日)→中止 生徒会による自主的な活動の充実→自己肯定感の育成 7/10　生徒会中心に「いじめ０運動集会」生徒会作成ビデオや寸劇によるいじめについての啓蒙、いじめ撲滅宣言実施。→中止　　各学級で「いじめ撲滅宣言」 10/9　1年自然体験学習(ふぉれすと鉱山) 7/8～13,11/25～29　生活改善週間設定　→中止 10/26　2年思春期教室 7/22　交通安全活動　→中止 10/11　2年職業体験　→中止 10/16･31,11/15　3年保育実習　→中止 1/20　2年認知症サポーター養成講座

○「スキー授業」　　市内の小学校７校の児童、延べ727名が参加。
(幌別小：悪天候による臨時休業により中止)
幌別西小104名2/18　幌別東小25名2/19　青葉小83名2/17　鷲別小86名2/15
若草小94名2/22　富岸小５年56名2/8　富岸小６年75名2/10　登別小204名1/26,2/2･5･9･12
○「温泉入浴体験」新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

評　価	豊かな心を育む体験活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施できない取組も多かったが、主に総合的な学習の時間や道徳科の授業において、各校の目指す児童生徒像や指導目標のもと、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、可能な限りで実体験を重視した実践を継続、発展させることができた。
今後の方向性	豊かな心の育成については、自然体験や社会体験、ボランティア活動など、各学校の実践を継続するとともに、「考え、議論する道徳」の授業を中心に、いのちを大切にする心や思いやりの心、いじめを許さない心を育む道徳教育の取組を支援する。 また、望ましい生活習慣の確立に向け、市内小学校６年生の約４割以上、中学校３年生の約７割以上がスマートフォンを所持している現状を踏まえ、登別市校長会・登別市ＰＴＡ連合会とともに定めた「ケータイ・スマホ３つのルール」の周知徹底を図るとともに、児童生徒がメディアとの接し方を主体的に考える取組を促していく。

項　目	**8　体力の向上**
点検内容	体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校では全国水準を超える結果を維持しており、中学校では全国平均を下回っているものの改善傾向にあるので、体育科のさらなる授業改善やスポーツ指導員の派遣を通して、児童・生徒の体力と運動能力の向上に努めていく。 また、望ましい生活習慣の確立のため、「ノーゲームデー」や「早寝早起き朝ごはん」の取組を啓発していく。

取組状況

○令和２年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と分析
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

○体力向上一校一実践内容

幌別小	短縄　記録カードをもとに練習(全学年、通年) クラス選抜ぞうきんがけリレー 長縄記録会(全学年 7･12 月)全校で記録会実施　→中止 幌小っ子タイム(全学年 6～7、10～11 月)各学級で目標を設定し長縄にチャレンジ　→中止 教育局いぶりんピック(12～2 月)ぞうきんがけトライアル、なわとびトライ参加　→中止
幌西小	短縄による日常的な体力づくり(全学年、通年)
鷲別小	11/24～27　縄跳び記録会を学年ごと実施、年間を通して「がんばりカード」を活用し意欲化 2/17･18　ペットボトルボーリング大会(体育委員会主催) 全校おにごっこ(全学年4/22～25)体育委員会主催　→中止 マイペースランニング(全学年10/28～31)グラウンドにコース設定。周数を記録　→中止 なわとび記録会(全学年11/29、前3週間練習)がんばりカードを活用して意欲化　→中止 全校ドッジボール大会(全学年2/13･14･17)体育委員会主催　→中止
登別小	なわとび(全学年通年)自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 前期：90 秒間持久跳び 後期：長縄跳び　※どさんこ元気アップチャレンジ登録　→中止 長縄発表会(低：12/14　高：12/20)　2 月全校遊び(リレー)→中止 すもう(全学年 5～9 月)体育の時間に実施、夏･秋場所を設定する。→中止 マラソン(全学年 8～9 月)自己目標を設定、体力づくりの時間に取り組む。→中止 スキー(全学年1～2月)　裏山(主に1･2年使用)　スキー場(1･2年1回、他2回)
富岸小	なわとび道場(全学年通年)毎朝のなわとび実施　短縄大会(全学年、6月) マイペースマラソン(全学年9月)長縄大会(全学年、12月) とんけし運動広場(おにスポ主催)
幌東小	全校児童「新体力テスト」の実施 校内体力づくりの実施～短縄跳び、全校表現(よさこい)
若草小	なわとび　休み時間に「なわとびカード」の名人を目指して取り組む(6 月～10 月) 「短縄記録会」(8～9 月)の開催
青葉小	短縄跳び(全学年6～2月)学級ごとに取り組む。
幌別中	長縄跳び(全学年)陸上記録会に合わせた体力づくり、昼休みに時間設定　→中止 ダンス指導(全学年2学期)学年単位で発表 保体専門委員会による球技交流会(バスケットボール･バレーボール)3学期に実施
鷲別中	長縄跳び(全学年12月)体育科で実施。制限時間内で跳んだ回数を学年内で競う 2/25　1･2年　ダンス講習会(プロダンサー)
登別中	導入5分間アップ(全学年通年)授業導入時筋トレ、コーディネーショントレーニング実施 体力アップイベント(全学年)体幹トレーニングなど生徒による企画と実行 ダンス指導(全学年)インストラクターによる指導
西陵中	ダンス講座(全学年)…文化・スポーツ振興財団「ダンスレッスン派遣事業」→中止 ダンス(全学年9月)学校祭でヒップホップダンスをクラス単位で発表(コンクール)→中止
緑陽中	11月　ダンス指導　クラス単位ビデオで発表

○体育コーディネーターの活用による体育授業及び体力向上の支援(子ども健康・体力改善事業)

委託先　ＮＰＯ法人「おにスポ」

市内全小学校にスポーツ指導員を 1 校あたり授業で年間 209.25 時間以上、放課後の運動教室で年間 24 時間以上開催。

実施内容　①「体育の授業」質向上支援～・柔軟性・俊敏性を養う動きを取り入れた準備運動の導入。
②実技の手本を見せ、児童へ体の動かし方やコツ、練習のポイントのアドバイスを実施。
③準備運動で、単位時間の中で行う運動に必要な筋肉を使う体操を導入。
④体力向上を図る取組の支援～・おにごっこや球技を取り入れた遊びへの参加について、積極的に児童に働き掛けることで、運動への意欲の向上を図るとともに、運動不足の解消、持久力、瞬発力を高められるような取組を実施。
⑤新体力テストの実施に関する指導補助。

実績　①授業実施時間

鷲別小	若草小	富岸小	青葉小	幌別小	幌東小	幌西小	登別小
224.75	232.5	224.75	224.75	224.75	224.75	224.75	232.5

②放課後の運動教室開催時間

鷲別小	若草小	富岸小	青葉小	幌別小	幌東小	幌西小	青葉小
18	18	18	18	18	18	16	18

※放課後の運動教室開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての小学校で予定する開催時間に満たなかった。

○栄養教諭による食育・給食指導

・勤務校での指導状況

幌別小　1年　11/27・12/3　給食ができるまでを知って食べ物を大切にしよう
10/16･10/19　食事のマナーをおぼえよう
2年　9/12 何でも食べよう元気に大きくなろう　11/2･11/4 おはし名人になろう
3年　12/18 すききらいをしないで食べよう　3/12 野菜博士になろう
4年　7/8 朝ごはんのよさ、働きを見直そう　2/24 バランスを考えて食べよう
5年　10/14 生活習慣を見直そう　12/22 給食の中の五大栄養素を見つけよう
6年　10/4 朝ごはんをパワーアップさせよう 10/23 満点給食メニューを考えよう
特別支援学級　7/17　食事のマナーを見直そう
※ 給食指導～毎日学級訪問

幌別東小　1年　2/1　給食センターの１日を知ろう
2年　2/4　何でも食べよう元気に大きくなろう
3年　2/8　何でも食べよう元気に大きくなろう
4年　2/22　食べものの３つのはたらきを知ろう
5年　2/17　五大栄養素について知ろう
6年　11/6　満点給食メニューを考えよう
1･2年　12/15　うがい手洗い教室（明治食育教室）
3･4年　10/7　おなか元気教室（ヤクルト食育教室）
5･6年　12/15　考えよう！明日の体つくり（明治食育教室）
※ 給食指導～毎日学級訪問　　食育教室の充実～年間通して児童が学べる空間の確保

・派遣先での指導状況

幌西小　9/8 4年学級活動（食育指導）　10/29 2年学級活動（楽しい食事）
若草小　11/18　1年特別活動（給食を楽しく食べよう）　11/19 5年特別活動（望ましい食生活）
登別小　9/14　5年（栄養素の働きについて）　9/17　2年（給食の主な栄養について）
青葉小　10/21　2年学級活動（何でも食べよう）　11/25　4年学級活動（食べ物の３つの働き）
鷲別小　9/24 3年（好き嫌いをしないで食べよう）　10/28　4年（丈夫な身体をつくろう）
富岸小　8/5 6年（給食メニューを考えよう）　8/25 2年（何でも食べよう）

○薬物乱用防止教室

幌別小	12/18　5･6年 危険ドラックも含めた非行の実態について室蘭警察署員による講話
幌西小	1/31　6年 薬物の恐ろしさ等について、室蘭警察署員による講話　→中止
鷲別小	6年　シンナーや麻薬の恐ろしさについて、担任による指導
登別小	薬物乱用防止に関する資料等を活用し学級担任が保健の時間に指導
富岸小	2/22　6年 薬物乱用防止教室 室蘭警察署員から薬の恐ろしさと使用は絶対にいけない旨の講話(喫煙も含む)
幌東小	11/5　飲酒や喫煙、薬物乱用の防止について室蘭警察署員による講話　→中止
若草小	12/4　薬物乱用防止教室(6年) 講師：室蘭警察署員
青葉小	7/22　3年 防犯教室(薬物の恐ろしさと、犯罪との関係について)　講師：室蘭警察署員
幌別中	12月　薬物乱用防止講座～外部講師を招いての講座は行わず、保健体育の授業内で実施
鷲別中	3/9　3年 薬物乱用防止教室(室蘭警察署)
登別中	3/9　3年 税関職員よる講話　→中止(本校教員による指導)
西陵中	10/28　3年 室蘭警察署員による、薬物全般に関する講話
緑陽中	3/5　3年 薬物乱用防止教室(聖マリアンヌ大学より外部講師)

評　価	令和２年度における全国体力・運動能力調査は、新型コロナウイルス感染症にかかるその後の状況及び学校教育への影響等を考慮し、中止することとなった。 全小学校において体育コーディネーターの派遣を行うことにより、体育科の授業改善はもとより、一校一実践の取組に加えて、新体力テストに全学年・全教職員で取り組むなど、学校をあげて体力の向上に取り組む気運を高めることにより、今後の全国体力・運動能力調査の結果が全国水準を上回ることが期待できる。
今後の方向性	体力の向上については、コロナ禍のため少年団活動や部活動が制限されているので、スポーツ指導員の派遣や体育科授業の工夫・改善を通して、児童生徒の健康・体力づくりの取組を促していく。

項　目	**9　安全教育　学校の耐震化**
点検内容	安全教育については、地域や小・中学校が合同で行う避難訓練や一日防災学校をはじめ交通安全指導や防犯教室、情報モラル教室・薬物乱用防止教室など、児童・生徒が状況に応じて適切に判断し、行動する力を身に付ける取組を引き続き支援していく。 学校施設については、幌別東小学校と幌別中学校校舎の耐震改修工事を実施する。学校の耐震化は令和二年度をもって完了となるので、今後は「教育施設等長寿命化計画」を基に、修繕や改修を行いながら、安全・安心な施設整備に取り組んでいく。

取組状況

○交通安全指導

小学校～入学前、学校説明会で通学路地図を保護者に手渡し、実際に保護者と歩くことを推奨。新学期に合わせ交通安全教室実施。入学後、教職員による登下校指導や自転車の実地指導実施。

中学校～新学期に合わせ交通安全教室実施。自転車通学を認めている学校ではパンフレット等作成し指導を重ね、安全意識啓発。

○ネットパトロールによる取組

道教委委託から情報提供に基づき、その状況に応じて全体あるいは当事者に指導し、保護者に協力を求めるもの。令和２年度の情報提供の数は０件。

○通学路の安全

・危険箇所の把握と改善～各校から通学路危険箇所の報告を受けたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、通学路安全推進協議会協議会は実施できなかった。

通学路安全プログラムに基づく危険箇所は26箇所であり、市HPや各校通学路安全マップ等で周知を図っている。

※ 協議会参加予定者：北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部・室蘭警察署交通課・登別市都市整備部・市民生活部・登別市教育委員会学校教育グループ

・地域や保護者の協力を得た見守り活動～町内会等地域ボランティアによる見守り活動のほか、保険会社や郵便局など、市が協定を結ぶ企業と情報共有をして進めた。

○防犯教室

幌別小	4月　安全指導週間(不審者対応等　室蘭警察署よりビデオ借用、各学級で視聴と指導) 12/18　非行防止教室（5・6年　講師：室蘭警察署）
幌西小	7/17　不審者対策避難訓練（侵入者への対応と避難）講師：室蘭警察署生活安全係　→中止
鷲別小	11/16～20　不審者対策避難訓練(学年ごと実施) 1/18～20　放送による非行防止教室(非行防犯に関する講話)講師：室蘭警察署員　対象：全学年
登別小	不審者対応訓練･携帯スマホ安全な利用について(全学年)　※隔年実施(2年度は未実施)
富岸小	各学級ごとにDVD学習(命を守る学習、防犯教室)集団下校
幌東小	7/29　不審者対応避難訓練
若草小	1/22　不審者対応訓練(教職員対象)　12/18　未成年者喫煙防止教室(6年)
青葉小	7/22　防犯教室(薬物等)室蘭警察署
幌別中	7月　喫煙防止講座(全学年)～講話等を行わず、保健体育の授業の中で取り上げた。
鷲別中	9/23　1年携帯安全教室(ＮＴＴ)　3/9　3年薬物乱用防止教室(室蘭警察署)
登別中	11/14　携帯スマホ安全教室(講師：KDDI社員)
西陵中	10/28 薬物乱用防止教室(3年学年道徳)
緑陽中	11/2　1年　外部講師(ドコモ)による防犯教室、2･3年は学級ごとにビデオによる防犯教室 3/5　3年　薬物乱用防止教室

○情報モラル教育～インターネット安全教室

幌別小	11/9　スマートフォンや携帯電話の利用方法・マナーについて学ぶ。 対象　4･5･6年児童、全保護者　講師：携帯会社契約社員(KDDI)
幌西小	11/9　ケータイ安全教室として、5･6年生にはＫＤＤＩ,3･4年生にはＥネットキャラバンから講師を招き、携帯やスマホの安全な利用法やネットトラブルなどについて、講演を実施。全校参観日で保護者、学校運営協議会委員も参加。　→中止
鷲別小	1/21　オンラインゲームトラブルに関する講話(全学年)　講師：室蘭警察署員
登別小	11/9　携帯スマホ安全な利用について(全学年)　講師：au社員　(保護者参加) 実際の被害事例に基づき、危険性と安全な使用の仕方についての講話。
富岸小	7/29～8/4,12/16～22　「ケータイ・スマホ3つのルール」強調ウィーク
幌東小	7/2　4年以上　スマートフォンやケータイの安全な使い方や、著作権等の指導について 講師：ＮＴＴドコモ職員
若草小	2/8　ケータイ・スマホ教室(5･6年生)ドコモ

青葉小	7/22　3年以上対象　携帯・スマホ教室　室蘭警察署
幌別中	スマホ携帯安全教室(全学年)　正しい使用の具体例を示した講話～講師を招いての講話は行わず、各学級担任等による指導を行った。
鷲別中	9/23　1年携帯安全教室(ＮＴＴ) 12/12　スマホ携帯の危険性について 新入生保護者説明会にて新入生保護者対象(室蘭警察署員)
登別中	11/14　携帯スマホ安全教室(講師：KDDI社員)
西陵中	8/6　携帯スマホ安全教室(全学年対象)
緑陽中	11/2　1年は外部講師(ドコモ)による防犯教室、2･3年は学級ごとにビデオによる防犯教室

○インターネット使用に関わる指導や啓発の取組

①小4から中3まで、ゲーム機やスマートフォン等インターネット機器に関する調査を年1回(5～6月)実施

※「自分専用のインターネットが使用できる機器の所有率」　令和2年6月調査結果　※（　）は昨年度

小4　76.3%　小5　82.8%　小6　86.4%　中1　91.5%　中2　92.2%　中3　94.6%

（小4　80.6%　小5　80.9%　小6　85.7%　中1　90.2%　中2　88.4%　中3　90.2%）

※「スマホ所持率」　令和2年6月調査結果　※（　）は昨年度

小4　19.7%　小5　29.1%　小6　42.1%　中1　56.3%　中2　64.7%　中3　77.8%

（小4　23.8%　小5　26.0%　小6　35.8%　中1　52.0%　中2　63.4%　中3　73.4%）

※「スマホ･携帯の1日の使用時間が3時間以上の割合」　令和2年6月調査結果　※（　）は昨年度

小4 12.6%　小5　13.4%　小6　21.3%　中1　15.8%　中2　14.7%　中3　26.3%

（小4　9.0%　小5　15.1%　小6　13.7%　中1　14.3%　中2　14.8%　中3　19.6%）

②結果を受け、市P連・市校長会・市教委で話し合い、市全体での指導の方向性を確認。各学校では「ケータイ・スマホ3つのルール」に基づき、児童生徒への指導や保護者への啓発を強化。学校運営協議会で協議する場面も多く見られた。

○避難訓練

学校名	取　組　内　容
幌別小	避難訓練(地震・火災)　7/15 教室から避難　8/27 休み時間の避難 集団下校訓練　学期１回　校外班ごとによる下校訓練 9/8　津波発生時の避難訓練実施 幌別中まで一斉避難
幌西小	7/14　火災想定避難訓練 8/29　小中合同避難訓練　大地震を想定し、西小グラウンドから望洋公園までの1㎞を中1と小2、小1と小6がペアになって避難。
鷲別小	6/21　小中合同避難訓練(地震による津波想定)→中止 6～7月　地震避難訓練(学年ごと避難経路確認) 9/1　北海道シェイクアウトに参加 10/20　火災想定避難訓練　講師：消防署職員
登別小	6/10　火災避難訓練　7/22　立ち止まり訓練（中休み） 9/24　地震津波避難訓練(高台避難：時代村社宅まで)　12/16 立ち止まり訓練(中休み)
富岸小	4/17　地震･火災時の避難経路確認(避難訓練はコロナ臨休中のため中止)→中止 9/12　小中一貫･地域連携避難訓練(津波避難)亀田公園まで避難 富岸町内会による避難誘導協力 3校合同の一日防災教室　→中止(R3年度再要請中)

幌東小	6/4 火災避難訓練　7/29 不審者対応避難訓練 9/12　鉄南連合町内会・幌別中と連携した地区避難訓練を実施　→中止 10/16　地震・津波を想定した避難訓練、幌中まで避難 2/5　津波を想定した避難訓練、工学院女子寮ドミトリーまで避難
若草小	6/24 火災想定避難訓練(避難経路確認) 9/1　北海道シェイクアウト(地震想定避難訓練)　9/4　胆振防災教育デー
青葉小	5/12　火災対策避難訓練　9/12 地震・津波想定避難訓練(地域合同)
幌別中	6/2　通報訓練及び火災を想定した紙上による避難訓練を実施 9/12　幌東小と合同で地域による大津波避難訓練を実施、幌別中が避難場所　→中止
鷲別中	9/12　避難訓練(津波：雨天のため被災者の教頭から東胆振地震について講話) 10/2　避難訓練(火災)
登別中	6/24　火災を想定した避難訓練　9/4 地震津波を想定した高台避難訓練
西陵中	8/28　地震･津波を想定した避難訓練を幌別西小と合同で実施。 大地震と大津波を想定した避難行動。小中合同での高台避難と事後指導を実施。 10/14　火災想定の避難訓練
緑陽中	6/17　地震・火災避難訓練 9/12　小中・地域合同避難訓練(津波)各町内会の避難場所の確認

○学校施設

1　幌別東小学校校舎の耐震改修工事

（1）耐震補強の内容

・校　　舎：外部耐震ブレース　8 構面増設、耐震スリット　18 箇所増設

・渡り廊下：外部耐震ブレース　2 箇所補強、方杖　4 箇所新設

（2）補強後の耐震性　（基準　構造耐震指標　Is 値 0.70 以上）

・校　　舎　Is 値　改修前 0.64　→　改修後 0.75

・渡り廊下　Is 値　改修前 0.51　→　改修後 0.82

（3）改修後の建物状況



校舎：外部耐震ブレース



渡り廊下：外部耐震ブレース

2　幌別中学校校舎の耐震改修工事

（1）耐震補強の内容

・校舎１：内部耐震ブレース　3 構面増設、耐震スリット　2 箇所増設、壁開口閉塞　2 箇所

（2）補強後の耐震性　（基準　構造耐震指標　Is 値 0.70 以上）

・校舎 1　Is 値　改修前 0.65　→　改修後 0.73

・校舎 2 は、H26 年度の耐震診断により耐震性能有りの判定　Is 値 0.83

（３）改修後の建物状況



校舎：内部耐震ブレース



校舎：壁開口閉塞

評　価	防犯教室は、近年の不審者通報や実際の被害の増加に伴い、各学校が警察署等の協力を得て、身を守るための具体策を講話や訓練によって学ぶ機会を設定することができた。 携帯・スマホの所持率増加を受け、生活リズムの乱れや人間関係のトラブルに対応するため、全ての学校において、携帯電話会社やＮＰＯ法人の協力を得て、情報モラルに関する教室・授業を行った。 通学路の安全については、通学路安全推進協議会を開催、報告のあった危険箇所について、関係部署に情報提供した。学校施設の耐震化については、幌別東小学校及び幌別中学校校舎の耐震改修工事を計画通り実施した。
今後の方向性	安全対策については、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、文部科学省が示す「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習や活動の内容を工夫しながら、可能な限り授業や部活動、各種行事等の教育活動が継続されるよう支援していく。

項　目	**10　不登校・いじめ対策**
点検内容	不登校・いじめ対策については、引き続き学校と教育委員会が連携を密にしながら、情報交流や教職員研修により教員の生徒指導力の向上を図るとともに、教育指導専門員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員による相談、適応指導教室における登校支援の充実を図るなど、不登校解消といじめ根絶に努めていく。

取組状況

○いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくり

・第１回登別市不登校･いじめ等対策会議

日時：令和元年５月 13 日　※コロナ感染拡大による臨時休業中につき、中止とした。

参加：校長会代表・教頭会代表・各小中学校担当・教育委員会

内容：報告～令和元年度本市不登校の状況・いじめ認知数等・教育相談状況、令和２年４月現在の状況

協議～令和２年度各種事業・各校取組の情報交流・指導専門員からの資料提供

研修～小中別交流会

第２回登別市不登校・いじめ等対策会議

日時：令和２年２月 10 日　※コロナ感染拡大による臨時休業中につき、中止とした。

内容：報告～令和２年度本市不登校状況・いじめ認知件数・教育相談状況、令和３年１月現在の状況

協議～令和３年度各種事業・各校取組の情報交流・資料提供

研修～中学校区別交流会

・第１回ふれあいサポート懇談会　日時：令和２年７月８日
　参加：校長会代表、教頭会代表、不登校児童生徒を抱える学校の教職員、
　　不登校児童生徒が皆無の中学校区は校区内から教職員1名、教育委員会関係者
　内容：令和２年５月末不登校児童生徒状況、第１回学校訪問報告、
　　不登校・不登校傾向及び長欠児童生徒に関する情報交流、鷲別岳登山について連絡
第２回ふれあいサポート懇談会　日時：令和２年10月７日
　内容：令和２年９月末不登校児童生徒の状況、第２回学校訪問報告、情報交流
　　研修（講話）「いじめ･不登校等の未然防止と不登校生徒の事例について」
　　講師：西陵中学校　教頭　内山　勇一　氏
・教職員研修会（講演）　日時：令和２年10月23日
　※コロナ感染拡大により中止とし、講演で使用予定の資料を各学校にデータ配付した。
　参加：市内小中学校教職員・教育委員会関係者
　演題　「授業のユニバーサルデザインについて」
　講師　星槎大学大学院教育実践研究科　教授　阿部　利彦　氏
・適応指導教室「スタディ広場」週一回　学校の申し出で協議し随時実施　５名通級(昨年度８名)
・体験教室「陶芸教室」(健千窯) 水曜午前　学校の申し出で協議し随時実施　４名通級(昨年度６名)
・自然体験　８月６日　鷲別岳登山　小学生２名参加(昨年度は中学生３名参加)
・教育指導専門員による相談(電話・来室)　６件(昨年度11件)
・教育指導専門員による学校訪問　年２回（6月中旬・9月中旬)
・不登校等支援関係者情報交流懇談会　２月12日　ＳＣ・ＳＳＷ・心の教室相談員
・保護者相談～希望により随時開催
・いじめ関係　アンケート調査(年２回)　取組状況調査(年２回)　対応状況調査(年３回)

○不登校出現件数・いじめ認知件数の推移　（単位：件数）

不登校出現件数の推移（病欠以外の欠席累計30日以上）						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2
小	4	1	2	1	1	3
中	22	18	19	21	29	25
計	26	19	21	22	30	28

いじめ認知件数の推移						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2
小	22	14	3	11	17	21
中	3	7	11	5	7	6
計	25	21	14	16	24	27

○ＳＣ･ＳＳＷ･心の教室相談員の支援　　※(　)は昨年度
・ＳＣ（スクールカウンセラー）の相談内容

相談者	不登校	いじめ	暴 力	友人関係	教師との関係	親子関係	心身健康	発達障害	学業進路	合 計
児童生徒	63(23)	0(0)	0(0)	5(7)	0(0)	3(4)	55(7)	13(1)	0(0)	139(42)
保護者	59(23)	0(0)	0(0)	0(2)	0(0)	0(1)	4(0)	13(1)	0(0)	76(27)
教職員	46(39)	0(0)	0(0)	6(4)	0(0)	2(3)	32(3)	13(1)	0(0)	99(50)
その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）～２名配置　活動状況　全学校を訪問

活動時間	10:30～16:15
対　　象	支援児童生徒　保育所0(0)人　小学校8(12)　中学校4(14)人　その他0(0)人
問 題 別	家庭環境4(5)件 不登校8(12)件　児童虐待1(2)件 発達障害2(1)件
訪問回数	学校72(27)件　関係機関12(2)件　家庭47(11)件

・心の教室相談員　　相談件数　計 148(54)件
勤務日数　鷲別中 73(75)日・幌別中 91(81)日・緑陽中 88(97)日・西陵中 80(73)日・登別中 111(102)日

評　価	登別市不登校・いじめ等対策会議や教育指導専門員による学校訪問、アンケート調査等を通して、不登校・いじめの実態把握に努めるとともに、具体的手だての共有を図り、福祉部局等の関係機関との連携により効果的な指導を展開した。 ＳＮＳ等のデジタルコンテンツの発展や、コロナ禍の生活により、インターネット等の依存症や、生活リズムの乱れなど児童生徒が抱える問題が多様化、複雑化していることから、心の教室相談員やスクールカウンセラー等への相談件数が増加傾向にある。 また、利用者数は少ないものの、陶芸教室や適応指導教室では登校への意欲を高めるために、きめ細やかな支援を行うことができた。支援を必要とする児童生徒が効果的に利用することができるよう、引き続き学校・保護者への適切な働き掛けをする必要がある。
今後の方向性	いじめ・不登校対策については、「登別市いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めてまいります。とりわけ、昨年度開設したメール相談について、より一層活用されるよう、相談方法の周知・徹底に努める。 また、教職員研修資料「ＳＯＳの出し方に関する教育」を活用し、子どもたちが不安や悩みを抱えたとき、誰にどのように助けを求めればよいか、具体的で実践的な方法を学ぶことができるよう、学校の取組を支援する。

項　目	**11　学校の適正配置**
点検内容	学校の適正配置については、児童・生徒にとって望ましい教育環境を整備するため、令和元年度は幌別中学校区と西陵中学校区において、保護者や地域との意見交換会を開催するなど、具体的な教育上の課題を整理してきた。 令和二年度は、登別中学校区において意見交換の機会を設け、丁寧な議論を進めるとともに、これまでの進捗状況を踏まえ、「登別市学校適正配置基本方針」に基づき、取組を推進する。

取組状況

○「登別地区　学校規模の適正化に関する意見交換会」を開催予定だったが、コロナ感染拡大により中止とした。

1　期日　　令和 2 年 11 月 25 日
2　会場　　登別市婦人センター　2 階
3　内容　(1)情報提供…地区別児童生徒数の現状と予想推移について
　　(2)登別市学校適正配置基本方針(平成 26 年 5 月)の説明
　　(3)文部科学省の手引(平成 27 年 1 月)の説明
　　(4)意見交換…1 グループ 7～8 名程度に分かれて行う
4　参加対象…最大 40 名程度を想定
　小・中学校や幼稚園・保育所に通う園児・児童・生徒の保護者、小･中学校校長・教頭・教務主任
　学校運営協議会委員、ＰＴＡ役員、地域住民（各町内会から１名）
5　教育委員会出席者　教育長、部長、参与、次長、学教総括主幹、学務主幹

評　価	本市学校適正配置基本方針を基に、令和元年度の幌別中学校区・西陵中学校区に引き続き、児童生徒の教育環境に課題が生じると考えられる登別中学校区での意見交換会において、保護者や地域住民と将来的な課題に係る共通認識をもつ予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催を取りやめた。今後も、児童生徒数の推移や地区の課題を話題に、地域や保護者の思いに寄り添いながら、子どもたちにとっての良好な教育環境整備に向けた議論を進めるため、市長部局と連携しながら、学校の適正配置に係る協議や協働を進める。
今後の方向性	学校の適正配置については、「登別市学校適正配置基本方針」で示した計画期間の前期が終了したので、適正規模が課題となっている学校区においては、各地区の学校運営協議会や意見交換会で挙げられた多様な意見を踏まえ、「地区別検討委員会」を設置し、学校の統廃合に向けた取組を推進していく。

項　目	**12　特別支援教育**
点検内容	特別支援教育については、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図るため、介助員や学習支援員を適切に配置するとともに、各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育九年間の連続性を配慮し、きめ細やかな教育相談や就学指導が行われるよう努める。

取組状況

○市内小中学校の特別支援学級の状況

	小　学　校	中　学　校
知的障害学級	8学級25名(8学級23名)	5学級13名(5学級14名)
自閉･情緒学級	8学級36名(9学級36名)	5学級14名(5学級16名)
肢体不自由学級	2学級2名(3学級4名)	設置なし

担当教員	43名(46名)
介助員	9名(9名)
学習支援補助員	20名(20名)

担当教員はハーフ勤務6人含む

○登別市教育支援委員会の取組

①就学前からの教育相談や就学指導

	担 当	内　　容
パートナーティーチャー派遣事業	学教G	特別支援学校教員による小中学校の発達障がいを含む障害のある児童生徒に対する指導・支援 活用校～富小２名　　登小３名　　若小１名　　幌西小６名 幌東小９名　登別中２名
教育支援委員会 9月～12月	学教G	適正就学に向けた取組 ・委員の幼稚園･保育所訪問観察･検査、担当者との懇談 ・諮問：11/9　　答申：12/14（全委員出席） ・総合検査：11/13　検討審査：12/1～12/4
教育支援委員の学校訪問	学教G･対象校	9～11月実施
１日体験入学	全小学校	1～2月各学校で実施
新入学児童合同引き継ぎ	幼･保･小	3/26.27 幼保･小実務担当者会議(合同引き継ぎ会)

②その後の一貫した支援

・各種研修会

【夏季研修会】

※胆振教育局指導主事を講師に、WISC－Ⅳに関する研修を予定

新型コロナウィルス感染症対応のため中止

【冬季研修会】

日時：令和３年１月８日（金）　9:00～11:30　場所：西陵中学校　参加者：２０名

内容：「卒業後の進路のためにできること」

講師：社会福祉法人　北海道事業団

胆振･日高障がい者就業・生活支援センターすて～じセンター長　今野　さおり氏

・特別支援学級作品展 10/17（土）～10/23（金）　主催者：登別市特別支援教育振興協議会

目的：作品を通した交流により間接的に思いを感じたり伝えようとしたりする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。

・関係部局との連携

○５歳児相談（保健福祉部健康推進グループ）　　年６回

子供の状況を早期から把握し、学教教育にスムーズにつながるよう、市内の小・中学校での特別支援の状況の説明や子供の様子に不安のある保護者との教育相談を実施する。

７月１５日　初就学に向けた説明会１３名　　教育相談１名

８月　５日　初就学に向けた説明会１６名　　教育相談２名

９月　２日　初就学に向けた説明会　７名　　教育相談２名

11月１８日　初就学に向けた説明会１６名　　教育相談２名

１月１８日　初就学に向けた説明会１０名　　教育相談１名

２月　３日　初就学に向けた説明会１３名　　教育相談１名

○就学説明会（保健福祉障がい福祉グループ）

次年度就学されるお子さんがいる家庭を対象に「就学の流れを知ろう」をテーマに実施する。

日時：令和2年9月30日(水）鉄南ふれあいセンター　10:30～12:30

講話参加者：１４名　個人懇談：８名

評　価	新型コロナウィルス感染症対策のため、日程や事業内の一部変更せざるをえいない状況もみられたが、就学指導（特に新入学）に関わる内容は、児童生徒の学習環境を整えるうえで重要であることからできるだけ丁寧に対応することに心がけた。 各学校の特別支援教育コーディネーターや療育・保育機関、保護者とのきめ細やかな連携に努め、教育相談や就学指導を適切に実施し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の充実を図るとともに、就学後の支援も必要に応じて進めることができた。 学校における支援ファイル「ふくはうち」の利用促進のほか、保健福祉部健康推進グループや障がい福祉グループが行う５・６歳児を対象とした相談の機会に、特別支援教育の説明や個別の教育相談を実施し、教育と福祉が連携することで、一貫した子育て環境を目指した取り組みを推進した。 言語障害通級指導教室（幌別小・鷲別小）では、設置されている幼児部との連携を深め、児童がかかえる困難の改善に向けた取り組みを一貫して進めることができた。
今後の方向性	特別支援教育については、引き続き各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育９年間の連続性に配慮した支援に努めるとともに、のぞみ園や幼稚園・保育所、関係機関等と連携して、幼少期からのきめ細かい支援や就学相談の充実に努める。

※登別市支援ファイル「ふくはうち」とは…障がいのある方や発達に心配のある方の情報を保健・福祉・医療・教育・就労などの関係機関で共有することで、地域の中で一貫した継続的な支援が受けられるよう、本市保健福祉部障がい福祉グループが作成したもの。

項　目	13　生涯学習社会の実現
点検内容	「第５次社会教育中期計画」に基づき、市民一人一人が、健康で安心できる生活の中で、生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、各種施策の推進に努めていく。

取組状況

○「第５次社会教育中期計画」に基づいた主な各種施策

・人づくり①青少年世代～これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上

地域学校協働本部事業	各中学校区	コーディネーターを配置し体験活動を実施　◇P48～参照
少年の主張大会	中止	コロナの影響を受け中止
放課後子ども教室	鷲小・東小	放課後に子どもが安心して活動できる居場所づくり ひなわしメート＝90名登録　はまなすメート＝34名登録
成人祭	市民会館	市と実行委員による企画、運営　出席者296/521名 R3.1.10
通学合宿	中止	コロナの影響を受け中止した。 また、４泊５日の長期間、登別全域から集まる児童同士が接触機会を持つこと、食事や宿泊ボランティアの多くが高齢者であり万一新型コロナウイルス感染症の感染が発生した際の重篤化のリスクも高いこと及び運営側のスタッフの長時間労働の問題を鑑み、令和３年度以降は事業を廃止することとした。

（◇放課後子ども教室や通学合宿の詳細はP47を参照）

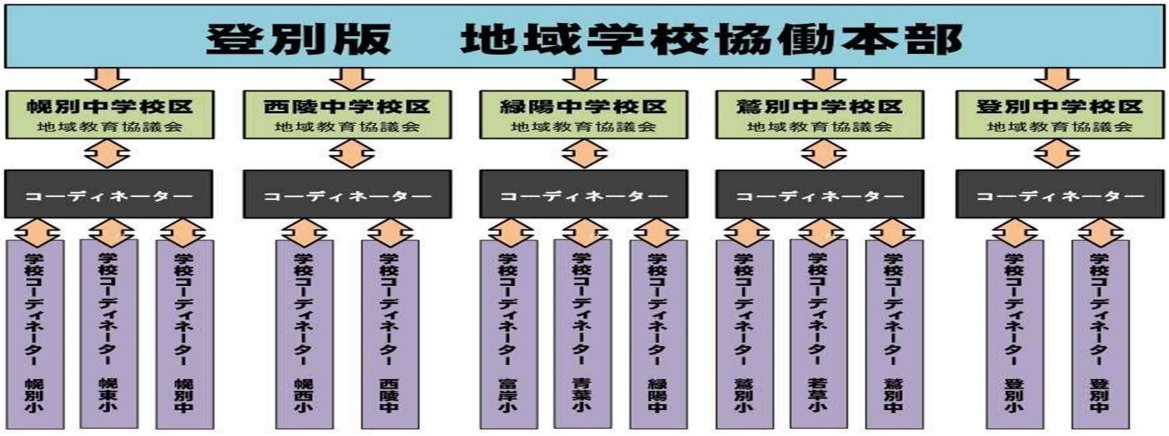
・人づくり②成人世代～学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成

・人づくり③高齢者世代～学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活動による地域教育力の向上

登別ときめき大学	55名登録	事務局主催の基礎コースと各団体の講座を連携コースとした生涯学習事業。基礎コース5講座（当初は7講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2講座中止）。 また、最終講座と兼ねて登別市市制施行50周年記念講座を実施した。 ～受講者256名、連携コース76講座
市民マイプラン講座	市内各所	サークル等が企画した講座や学習会を支援する。 申請団体＝3団体（文化・福祉団体等）

（◇「家庭教育」→P46以降を参照　「文化活動」「健康づくり・スポーツ」→P50以降を参照）

・「学習環境の整備」 生涯学習人材バンク 登録者84名（令和元年度84名）46団体（令和元年度46団体）



○「学校支援地域本部」「地域学校協働本部」への発展について

・これまで「学校支援地域本部」として推進してきた体制を基盤とし、令和元年度より「地域学校協働本部」へと移行し、令和元年度から３年間を目途に「学校コーディネーター」を各学校に１名配置することを目指し、段階的に体制整備を進める。

評　価	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止を余儀なくされた事業もあったが、市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、人づくりという観点から各世代に応じた事業を展開することができた。しかし、長年実施している事業については、市民のニーズの把握に努め、事業の実施方法などを検討する必要がある。 また、「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」へ改組し、５つの中学校区に配置されているコーディネーターを中心に、学校コーディネーターの配置など体制の強化に努めた。
今後の方向性	市民一人一人が主体的に学び、人と人とのつながりを深め、心豊かに暮らすことができる環境づくりが重要である。そのため、今年度からスタートする「第６次社会教育中期計画」に基づき、多様な主体の協働とＩＣＴの活用を図りながら、各種事業や施策に取り組んでいく。

項　目	**14　ふるさと教育**
点検内容	ふるさと教育については、郷土に誇りと愛着を持ち、積極的に地域社会と関わる人材の育成を図るため、関係機関や団体と連携し、郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実に努める。 また、アイヌ民族の歴史や文化に触れ、理解が一層深まるよう、市内公共施設にアイヌ文様のタペストリーを展示するとともに、郷土資料館の展示をリニューアルするなど、アイヌ文化に対する興味・関心が高まるよう努めていく。

取組状況

○郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励

○アイヌ文化の伝承や普及・啓発～登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組支援

アイヌ文化講座（制作）の講師を登別アイヌ協会に依頼したほか、知里真志保を語る会及びＮＰＯ法人知里森舎主催事業の周知等で支援を行った。

(公財)北海道アイヌ協会主催事業に係る経費の一部を補助した。

アイヌ政策推進交付金を活用して、市内小学校８校にアイヌ民族の伝統的な刺しゅうや切伏を施したタペストリーを展示したほか、市内に残るアイヌ文化関連資料の悉皆調査等を実施した。また、郷土資料館のアイヌ文化展示コーナーの展示ケース製作やアイヌ文化関連資料の修復、アイヌ文化関連史跡等の解説看板を設置した。

◇縄文出前講座　6･7･11月　市内小学校5校で実施（6年生10クラス281名参加）

◇古文書教室　2/21･28･3/7　古文書解読の実践3回。延べ56名参加

◇アイヌ文化講座（制作）9/1～30　登別アイヌ協会の会員を講師にアイヌ民族の歴史や文化を学んだほか、アイヌ文様の刺しゅうを施したランチョンマット制作、市内のアイヌ語地名散策、ウポポイ見学を実施した。全5回　22名参加

（講演）2/21 北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授北原モコットゥナシ氏より「ウアムキリ・ウアイヌコロ　相互理解と尊重をめざして」と題して講演いただき、市民にアイヌ文化を学ぶ機会を提供した。参加者 43 名

◇歴史交流事業　本来であれば、本市から学芸員を派遣し交流を深める年度であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止。

◇郷土資料館特別展　アイヌ文化展示コーナーのリニューアル準備等のため、実施予定なし
◇郷土資料館企画展　10～11月「紅葉写真展」
2～3月「おひなさま人形展」
※新型コロナウイルス感染拡大の影響による臨時休館のため、2つの企画展が中止
◇体験学習事業
※登別市郷土資料館、文化伝承館、のぼりべつ文化交流館は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4/18から5/31まで臨時休館となったため、事業を中止にしたり、また、再開後も参加人数を制限するなどして対応した。
・郷土資料館事業　5/24　【中止】わんぱくサムライ体験
・文化伝承館事業　通年　ボランティアSLGによる、べこもちづくりなどの体験　13回　116名参加
・のぼりべつ文化交流館　6～10月の間に7事業を実施　118名参加
◇各種講演等
令和2年度の実績はなし

評　価	登別市アイヌ施策推進地域計画に基づき、アイヌ政策推進交付金を活用し、市内小学校へのアイヌ文様タペストリーの設置や郷土資料館の展示ケースの製作など新たな事業を実施し、市民のアイヌ文化への理解が深まるよう取組を進めた。新型コロナウイルス感染症の影響で、郷土資料館やのぼりべつ文化交流館での展示や体験事業が一部中止を余儀なくされたが、対策を講じながら可能な限り学習会を実施し、ふるさと教育の基となる文化財の保存、普及・活用の取組を進めた。
今後の方向性	ふるさと学習については、郷土資料館の展示や郷土の歴史・文化を学ぶ機会の充実など本市を形づくる歴史遺産の保存や活用を通して、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が深まるよう取り組む。 また、アイヌ語の地名などを紹介するため、新たに登別地区において看板等を整備するほか、引き続き公共施設等へアイヌ文様のタペストリーの設置を図るなど、アイヌ文化の振興並びに伝統の普及・啓発に努める。 さらに、登別市が輩出した『アイヌ神謡集』の作者である知里幸恵をはじめとするアイヌ文化の伝承者の功績について、広く情報発信に努める。

項　目	**15　家庭教育**
点検内容	家庭教育については、「家庭教育学級」を開設し、保護者を対象とした子育てに関する情報提供や活動支援の充実に努める。 また、家庭や地域の協力を得て実施している「放課後子ども教室」「家族の週間」などの事業については、子供たちが地域社会の中でのびのびと健やかに成長するように取り組んでいく。

取組状況
○令和２年度より市が主体となって、保育所、幼稚園、小学校の保護者を対象に１学級を開設し、交流を図りながら、子育てに関する様々なことを学ぶことのできる学習会（講演会・体験講座等）を年に３回程度開催。　参加者40名

市教委主催	10/15子どもと良好な関係を築こう！お母さんのためのアンガーマネジメント 12/10冬休みの過ごし方 12/13足育講座　子どもの足の育て方と足のトラブルについて 3/11家族が笑顔になる！楽しいお片づけ！！

○「通学合宿」　みんなで学ぶ「子ども村」　場所：ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」
目的～基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせるとともに、協調性や責任感を育む。
対象～小学5・6年生対象　2地区に分け、4泊5日、年２回実施予定。コロナ禍により中止。
運営～地域ボランティアの協力や北海道の学校サポーター派遣事業を活用して実施。
幌別小・幌別西小・幌別東小・登別小グループ 11/10～14予定。コロナ禍により中止。
青葉小・富岸小・若草小・鷲別小グループ 10/27～31予定。コロナ禍により中止。

○「放課後子ども教室」～放課後に子どもたちが安全・安心に過ごすことができる活動拠点づくり
活動日時～平日2日間、4～9月午後5時まで　10～3月午後4時まで
運営～コーディネーターや教育活動サポーターなど地域の方々による実行委員会が主体。
鷲別地区放課後子ども教室「ひなわしメート」 計83日間実施　計3,858名
幌別東小学校区放課後子ども教室「はまなすメート」 計61日間実施　計770名

○「地域学校協働本部事業」　参加者数 計3,551名（大人・児童・生徒とも）

【鷲別中学校区】

鷲別小学校	事業内容
5～3月	鷲別子ども見守り隊（40名）による登下校の見守り　11回 放課後子ども学習塾　5・6年　6回
2/15	5・6年スキー授業の指導、補助
2/1	ひな人形飾り（3月片づけ）
若草小学校	事業内容
5～6月	ふれあい農園（いも植付け・土寄せ）
2/22	5・6年スキー授業の指導、補助
8～2月	放課後子ども学習塾（算数）4～6年　6回
鷲別中学校	事業内容
9月30日	夜間パトロール（学校祭前下校生徒のため）

【緑陽中学校区】

富岸小学校	事業内容
4月上旬	新入生下校時の見守り　4回
6月～9月	ジャガイモの植え付け・収穫
2/8･10	5・6年スキー授業の指導、補助
4～3月	放課後サポート　5・6年　5回
青葉小学校他	事業内容
7/11	富岸川川遊び
2/17	5・6年スキー授業の指導、補助
5月から	放課後サポート　5・6年　5回

【幌別中学校区（幌別小・幌別東小・幌別中）】

実施時期	事業内容
5/18	ふれあい農園　田起こし
5/24	ふれあい農園　代かき

10/21	ふれあい農園　鹿対策工事
2/19	5・6年スキー授業の指導、補助（幌別東小）
5～2月	放課後学習塾（幌別小:9回・幌別東小:0回）
週3回	図書ボランティア～図書の整理修理等（幌別東小）

【西陵中学校区（幌別西小・西陵中）】

実施時期	事業内容
8～2月	放課後学習サポート　幌別西小4～6年　9回
2/18	5・6年スキー授業の指導、補助

【登別中学校区（登別小・登別中）】

実施時期	事業内容
5～7月	ふる里農園準備・花壇整備
8/29	ふる里農園収穫祭
10/3	採卵体験
1～2月	スキー授業の指導、補助（1～6年）　5回

評　価	家庭教育学級では、さまざまな取組を通して、家庭の教育力の向上を図ることができた。一方で、保護者のライフスタイルが多様化する中、参加者の固定化が生じていることなどから、参加者のニーズ把握に努め、内容を企画することが必要である。家族の時間づくりプロジェクトの後継事業である「家族の週間」において、協賛団体を利用する児童生徒の割合は、新型コロナウィルス感染症の影響により前年に比べ減少したが、一定程度の成果が継続しているものと思われる。放課後子ども教室、地域学校協働本部事業においては、地域ボランティアの協力のおかげもあり、子どもたちに豊かな学びの場を提供することができた。
今後の方向性	家庭教育については、引き続き「家庭教育学級」において、子育ての知識や望ましい生活習慣などを学ぶ学習会を開催し、子育てに関する情報提供や保護者同士が自身の体験や知識を積極的に交換できる場を設けるなど、内容の充実に努める。

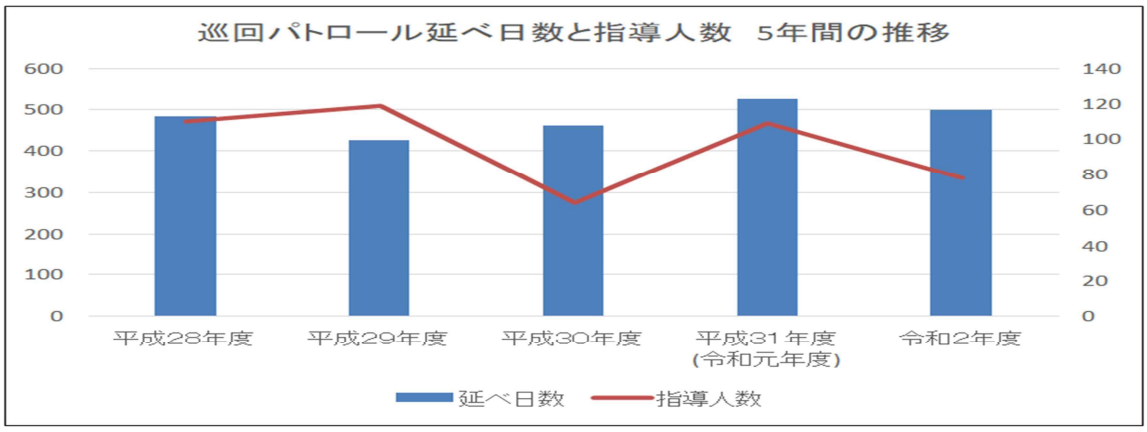
項　目	**16　青少年の健全育成**
点検内容	青少年の健全育成については、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導、「こども１１０番スタディちゃんの家」の取組など、多くの目で子供を見守る環境の整備に努めていく。

取組状況

○登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導

・市内巡回パトロール（通常・特別）実施状況　※（　）内は昨年度実績

	通常巡回		特別巡回	合　計
	鷲別･緑陽 校区	登別･幌別･西陵･明日 校区	（列車添乗･祭典その他）	
延べ日数	230日(212日)	238日(215日)	30日(98日)	498日(525日)
延べ巡回数	502回(385回)	642回(432回)	39回(138回)	1,183回(955回)
延べ人員	682人(582人)	819人(638人)	97人(184人)	1,598人(1,559人)
指導人数	17人(39人)	60人(57人)	1人(13人)	78人(109人)



※指導の内訳（その他にはゲームコーナーを含む）　（単位：件数）

	自転車等			危険な行為			その他			合　計		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2
13歳未満	9	27	39	33	46	22	8	4	1	50	77	62
13歳	1	0	0	0	5	1	0	0	0	1	5	1
14歳	5	0	0	0	1	7	0	0	0	5	1	8
15歳	0	0	0	0	7	3	2	0	0	2	7	3
16歳	2	3	4	0	3	0	0	0	0	2	6	4
17歳	2	2	0	0	2	0	0	0	0	2	4	0
18歳	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
19歳	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9	0
合計	21	32	43	33	73	33	10	4	1	64	109	78

指導内容と推移（前年度比）

「自転車等」急な飛び出し5件（－6件）車道逆走22件（＋13件）自転車並進16件（＋14件）　他

「危険な行為」危険な道路横断4件（－20件）スケートボード14件（＋1件）

遊泳禁止区域水遊び0件（－12件）道路遊び7件（－2件）　他

・万引き状況　（調査を依頼し報告を受けたもの）　（単位：件数）

	小学生	中学生	高校生	小中高以外	合計
29年度	10	0	0	9	19
30年度	1	6	1	4	12
元年度	3	1	0	10	14
2年度	2	1	2	6	11

※市内大型店3店舗、市内コンビニ20店舗、その他25店舗、計48店舗の協力による。

・不審者・変質者出没状況　（単位：件数）

	温泉地区	登別地区	幌別地区	鷲別地区	その他	合計
29年度	0	0	4	8	0	12
30年度	0	1	2	8	0	11
元年度	0	0	9	5	0	14
2年度	0	0	9	8	0	17

○子ども110番の家　地域住民・商店の協力による子どもの駆け込み場所　415件設置

内訳：鷲中校区95件　緑中校区102件　幌中校区118件　西中校区43件

登中校区57件

○情報の共有

・登別市青少年指導委員連絡会～学校教員と一般の指導員による交流、状況や指導の重点を確認。

・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議～小学校・中学校他代表教諭による現状や課題などについての情報交流、協議、問題行動の早期発見や未然防止を図る。

・不審者出没状況調書、巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書による情報発信。

・メール配信システム

室蘭市や伊達市など、西胆振6市町の定住自立圏連携事業が進める、保護者向けのもの。

学校から保護者に災害･不審者情報、臨時休業のお知らせ等をいち早く確実に伝える。

参加校～小学校7校、中学校5校。他、小学校1校は他のシステムを利用。

評　価	巡回パトロールでは、突発的な事案発生に伴う特別巡回の実施など、状況に応じた対応を執ることができた。不審者の出没状況は漸増傾向だが、防犯意識の高まりによる通報と思しき案件もある。
今後の方向性	青少年の健全育成については、子どもの非行防止と通学路等における安全確保のため、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、青少年センターを中心に、引き続き登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに努める。 また、近年増加傾向にある不審者情報を地域と共有し、多くの目で子どもを見守るため、「子ども１１０番スタディちゃんの家」の設置場所や防犯訓練等の在り方を検討する。

項　目	**17　文化・スポーツの振興**
点検内容	文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室・大会の開催などの取組を推進するとともに、本市の歴史や文化が継承されるよう、市民意識の醸成に努めていく。 令和２年度は、三市三町で実施する西いぶり定住自立圏文化事業において、日本の伝統文化に触れるため、「上方落語」の公演を本市で開催する。 また、令和２年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年であるため、障がい者スポーツへの理解が深まるよう、パラリンピックの車いすテニスの元日本代表選手や陸上競技の伴走者を招き、市民や児童・生徒を対象とした講演会や実技講習会を開催する。

取組状況

○西いぶり定住自立圏文化事業【中止】

公演「桂米朝一門　上方落語を楽しむ会」　7/26　　主管：登別市

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止。令和3年度も引き続き登別市が主管市となる。

○学校での郷土芸能の伝承

鷲別小学校～鷲別子ども獅子舞

※ 新型コロナウイルス感染症により神社の祭典が中止となったため未実施

幌別東小学校～駒踊り　新型コロナウイルス感染症により未実施

登別中学校～熊舞　Be Smileプロジェクトで披露(学校グラウンドで地域の方々へ向け)

熊舞引継ぎ式(保護者に公開)で披露

○市民へ文化活動の発表の場を提供　　市民会館サークル展　10/20～22

市民会館を中心に活動しているサークルの活動紹介と作品展示　14団体出展

○東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業（中止）

5月　パラ陸上伴走者　中田　崇志　氏　（講演会、実技指導）

9月　元車いすテニスプレーヤー　二條　実穂　氏　（講演会、実技指導）

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、両事業ともに中止。令和3年度に改めて実施

○一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する文化・スポーツ事業への補助

○文化振興事業

（１）主催事業

初心者英会話教室　1回目 2回目	中止 10/1･5･8･12･15･19　7名	一般の方を対象に市民会館にて実施 ※１回目…コロナの影響を受け中止
ハーブ教室	中止	コロナの影響を受け中止
筆ペン習字教室	8/19･26･9/2･9･16･23　7名	一般の方を対象に6日の日程で市民会館にて実施
ビーズアクセサリー教室	7/3　4名	一般の方を対象に市民会館にて実施
燻製作り体験	中止	コロナの影響を受け中止
スイーツデコ教室	8/1　3名	小学生を対象に市民会館にて実施
楽しい工作教室	中止	コロナの影響を受け中止
豆腐作り体験	中止	コロナの影響を受け中止
美味しいコーヒーの淹れ方教室	中止	コロナの影響を受け中止
常備菜体験	中止	コロナの影響を受け中止
道新ジュニアクラシック「登別市小・中学生のための札響コンサート」	中止	コロナの影響を受け中止
歌謡コンサート	中止	コロナの影響を受け中止
春風亭一之輔独演会	中止	コロナの影響を受け中止

（２）共催事業

市民文化祭	9/20～11/15	各地区において実施
文化講演会	中止	コロナの影響を受け中止
小中学生書初展	2/5･6･7　282名	市民会館にて小・中学生の書き初めの展示

○スポーツ振興事業

（１）主催事業

初心者レディースゴルフ教室	中止	コロナの影響を受け中止
温泉散策ウォーキング	10/10　14名 （年間開催数2回を予定）	登別温泉にて一般の方を対象に実施 うち1回はコロナの影響を受け中止
ジュニアソフトテニス教室	中止	コロナの影響を受け中止
ファミリーフィッシング	6/7　8名 （年間開催数2回を予定）	室蘭港にて親子を対象に実施 うち1回はコロナの影響を受け中止
ストレッチ教室	中止	コロナの影響を受け中止

初心者スノーボード教室	2/7･14･21　9名	サンライバスキー場にて小学生以上を対象に実施
キッズHIPHOP教室	中止	コロナの影響を受け中止
ダンスレッスン派遣事業	9/3･2/25　270名	令和2年度は登別中・鷲別中に派遣
スポーツテーピング講習会	中止	コロナの影響を受け中止
軽スポーツ指導者派遣事業	11/19	令和2年度は幌別東小に派遣
市民ソフトボール大会（夏）	中止	コロナの影響を受け中止
市民ソフトボール大会（秋）	中止	悪天候により中止
市民ボウリング大会（シニア夏）	中止	コロナの影響を受け中止
市民ボウリング大会（シニア秋）	中止	コロナの影響を受け中止

（２）共催事業

市民ミニバレー大会	中止	コロナの影響を受け中止

○健康づくり、スポーツ振興

市民ラジオ体操会	中止	コロナの影響を受け中止
西胆振6市町小学生スポーツ交流会	中止	コロナの影響を受け中止
市民スポーツ・健康フェスティバル	中止	コロナの影響を受け中止
学校体育施設開放事業	通年	10施設（小8校、登中、緑中（R2.10～））を開放 延べ開放日数875日　延べ利用団体1,126団体 延べ利用人数18,218名
朝イチ・リフレッシュ体操	8/1・2・8	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、ウォーミングアップストレッチを兼ねて、音に合わせて全身を使った運動を富岸小、幌別小、鷲別小、登別小を会場に実施 延べ参加人数212名
登別市市制施行50周年記念　オクトーバー・ラン＆ウォーク2020	10/1～31	専用の無料アプリで10/1～31までの1ヶ月間、走行・歩行距離を計測しその結果を全国の参加自治体間で競い合うイベントを実施 登別市市制施行50周年の記念の年であることから1ヶ月間の走行又は歩行距離が50㎞を達成した市民に対し完走証・ノベルティグッズを配布 ウォーキングの部参加人数143名（うち50㎞達成者116名） ランニングの部参加人数83名（うち50㎞達成者40名）

評　価	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの事業が中止を余儀なくされたが、各種事業を通じて、市民一人ひとりの豊かな感性や創造性を育み、心豊かな生活を送ることができるとともに、生きがいを感じることができるような文化活動を進めることができた。 また、スポーツについては、朝イチ・リフレッシュ体操を通して、運動機会及び近隣住人とのコミュニケーションの創出、生活リズムの改善、健康・体力の維持増進を図ったほか、登別市市制施行 50 周年記念オクトーバー・ラン＆ウォーク 2020 の実施により、市民にスポーツ活動の機会を提供するなど、徹底した感染症対策の中にあっても可能な活動を実施することができた。
今後の方向性	文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民が芸術・文化に触れる機会の充実や各種文化活動の支援とともに、スポーツ活動の促進による健康・体力づくりに努める。 また、「ＳＯＭＰＯボールゲームフェスタ２０２１」や「東京２０２０オリパラで夢を育むスポーツ推進事業」に取り組み、子どもたちに体を動かす喜びの体験やスポーツの魅力を伝える。 さらに、休日の学校部活動を段階的に地域へ移行する国の方針が示されたことから、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の整備に向け、地域スポーツの在り方について検討する。

項　目	**18　学校給食**
点検内容	郷土を実感できる食材を取り入れた献立づくりや栄養教諭による食育指導を通して、食に対する関心を高めるとともに、衛生管理の徹底を図るなど、安全・安心な給食の提供に努める。

取組状況

○地元の食材を積極的に取り入れた献立づくり（使用回数９０回　使用率４５．６８％）

毎日提供している「のぼりべつ牛乳」や富浦産だし昆布、鮭のダイスカット、のぼりべつ豚等、地場産品を積極的に活用。地場産品の使用内容を献立表やランチメール等に記載し、各学校や保護者に配布したほか、野菜等についても、入札規格等において近隣市町村産品または道産品を指定し、広域な地産地消の取組も実施。

○発達期にある児童生徒に豊かでおいしい給食の提供

文部科学省の学校給食摂取基準等に基づき、学校栄養教諭が献立を作成するなど、児童・生徒の栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食を提供。児童生徒の体力不足を補い丈夫な体をつくるため、学校教育Ｇと連携して各小学校に栄養教諭を派遣し、食育授業を年 12 回実施。

○「和食」を伝えるための給食の実施

月	和食の献立名
4 月	かぼちゃ団子汁
5 月	―
6 月	ひっつみ汁
7 月	豚汁
8 月	豆腐となめこの味噌汁
9 月	鮭のごまみそ鍋

月	和食の献立名
10 月	のっぺい汁
11 月	石狩汁
12 月	せんべい汁
1 月	雑煮
2 月	鮭大根汁
3 月	のっぺい汁

○登別市市制施行50周年記念給食

市制施行50周年を記念し、市内の児童生徒にとってこの節目の年が記憶に残る年となるよう『登別市市制施行50周年記念給食』として登別市や登別市とゆかりのある市にちなんだ献立を定期的に提供。

月	記念給食の献立名
6月	登別ポークカレー 登別牛乳プリン
7月	閻魔焼きそば 厚焼き卵（シンボルマーク入）
8月	登別鮭の三平汁 閻魔ラーメン のぼりべつレアチーズプリン のぼりべつ豚丼 夏野菜キーマカレー
9月	かしわのじゅんじゅん 近江牛コロッケ

月	記念給食の献立名
10月 （福生市）	全粒粉コッペパン 福生ドックソーセージ （福生風ドック）
11月 （白石市）	閻魔ラーメン 登別豚の春巻き 仙台イチゴヨーグルト
12月 （守山市）	ごはん（海老名米） 厚焼き卵（シンボルマーク入） なっとう（道南平塚食品）
1月 （白石市）	ごはん（白石米） 登別豚丼 登別鮭フライ
2月	閻魔焼きそば 牛乳プリン
3月	登別豚丼（登別豚） チョコガナッシュケーキ （わかさいも） 厚焼き卵（おめでとう焼き印）

○食におけるアレルギー対応

①情報の共有

・学校や関係機関（医療関係や消防機関等）と、給食センターのアレルギー対応や各学校におけるアレルギーを有する児童生徒の状況、緊急時の対応等、情報を共有し連携を図った。

・学校や保護者から連絡等があった場合は、一層きめ細やかな対応等に努めた。

②実際の対応～学校から提出される「給食申込書」により対応。

牛乳アレルギー：小学校19名→緑茶に変更　　中学校（明日中等含む）16名→緑茶に変更

③給食センターからの情報発信

各学校に対し食物アレルギーの児童・生徒用（学校等配布）　予定献立表（小中学校・児童生徒へ配布）

予定献立（主な材料名：小中学校へ配布）、使用品目のアレルゲン表示一覧表（小中学校へ配布）

ランチメール（小中学校へ配布）

評　価	献立に地元食材及び近隣や道産品を活用し周知を図ることにより、児童・生徒が地域の食に対する関心を高め、郷土愛を育むことに貢献することができた。 また、各小学校に栄養教諭を派遣して実施する食育授業が定着し、栄養学的視点からの授業に偏ることなく、児童・生徒の健康維持・増進及び体位の向上に寄与することができた。
今後の方向性	学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供するとともに、郷土を実感できる食材を取り入れ、ふるさとへの愛着心の醸成や地域の産業への理解が深まるよう努める。

項　目	19　図書館
点検内容	ボランティアとの協働による郷土資料の収集とデジタル化、郷土史関連講座の開催、アイヌに関する文献収集を進めるとともに、引き続きブックスタートやライブラリースタート、おはなし会、「ビブリオバトルの夕べ」を実施するなど、読書や文化に親しむ環境づくりを推進していく。

取組状況

○令和２年度　図書館での貸出冊数 145,795 冊 移動図書館車での貸出冊数 15,280 冊 購入冊数 5,632 冊

○図書ボランティアとの連携・協働

「おはなしぽけっと」のおはなし会（8 回)、「図書館市民活動サポーター」による図書館ホームページの刷新、郷土資料のデジタル化。

○市民や関連機関との協働事業

特集展示「身近にがんを考える」（国立がん研究センター、9/2～23）

○市役所各部局との連携事業

「登別市市制 50 周年記念展示」（7/15～8/27)、「自殺予防月間展示」（健康推進グループ、9/26～10/7）

○ブックスタート・ライブラリースタート事業や図書館講座などを通して、利用者の増加を図る。

・ブックスタート（４か月児を対象に、絵本３冊とアドバイス集などを配布。実施数 270 人）

・ライブラリースタート（３歳児と保護者を対象に図書館で本１冊を選び送付。実施 96 人）

○図書館講座「やってみましょう！電子図書館」(3/3・3/10)

○主なイベント等の事業　（◇は「ふるさと学習」と関連）

6/12-25　「登別市立小学校・中学校教科書展」
7/15-8/27　「登別市市制 50 周年記念展示」
8/8　「夏休み工作」
9/2～23　国立がん研究センター北海道内図書館巡回展示「身近にがんを考える」
9/26-10/7　「自殺予防月間展示」共催：健康推進グループ
10/9-29　「赤羽末吉生誕 100 年記念展」
11/3　◇「郷土資料講座　知里幸恵・真志保・金成マツとその著作」講師：小坂博宣氏
11/5-28　テーマ展示「湯ったり気分　温泉の本」
11/28　工作「おりがみで作ろう！フォトフレーム」（主催：アーニス分館）
12/1-15　「Go To 図書館！雑誌付録抽選会　第 1 期」
12/12　「クリスマス工作」
12/18-1/15　「Go To 図書館！雑誌付録抽選会　第 2 期」
1/21-2/20　テーマ展示「図書館動物園にようこそ！」
2/27-3/25　東日本大震災 10 から 10 年「３・１１　あの日を忘れない」
3/3・3/10　「やってみましょう！電子図書館」

○新規事業　・電子図書館『デジタル分館』開設(3 月）
・地域資料デジタル化事業（アイヌ政策推進交付金事業）
・「図書館市民活動サポーター」との協働による図書館ホームページ刷新（10 月）
・図書除菌機、空間除菌機の設置
・温泉配本所の閉鎖に係る業務（蔵書と書架の移動、こぐま号代替巡回策定）

評　価	新型コロナウィルスにより臨時休館や制限付き開館を余儀なくされた。また、例年実施している事業の多くが中止に追い込まれた。しかし、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、電子図書館『デジタル分館』を開館し、コロナ禍で外出抑制の状況下での読書環境づくりを推進できた。 ボランティアとの協働では、「図書館市民活動サポーター」により図書館ホームページを刷新できたほか、郷土資料をデジタル化してホームページ上で公開することができた。 アイヌ関連文献の収集では、従来の紙媒体に加え、「知里真志保著作集」など登別ゆかりの人の著作を電子書籍としても収集し電子図書館で閲覧できるようにした。
今後の方向性	図書館については、引き続きアイヌ文献の収集に取り組むとともに、市民活動サポーターとの協働による郷土資料のデジタル化を進める。 また、電子図書館については「図書館通信」による電子資料の紹介や操作方法の講習会を実施し、利用の促進に努める。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	H31 評定	R2 評定
1	地域とともにある学校づくり	本市においては、地域と学校が連携・協働体制を構築し、地域全体で子供たちの育成を図る「地域学校協働本部事業」に取り組んできた。 今後は、よりきめ細やかに地域の実情を把握し、将来を見据えて持続可能な取組とするため、学校コーディネーターの配置を段階的に進め、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により、登別らしい特色ある教育活動を展開していく。	B	B
2	幼保・小・中連携 小中一貫教育 キャリア教育	幼保・小・中連携については、今年度より北海道教育委員会による「幼児教育と小学校教育の接続の円滑化モデル事業」の指定を受け、相互参観や合同研修、スタートカリキュラムの作成などの取組を進めてきたので、推進リーダーを中心にこれまでの取組を効果的に反映させ、引き続き事業の推進に努めていく。 小中一貫教育については、各中学校区において、義務教育九年間の系統性・連続性に配慮した創意ある教育活動が展開されているので、取組の成果と課題を検証するとともに、実践交流の充実が図られるよう支援していく。 また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校と連携するとともに、職場訪問や職業体験を通して地元への愛着や理解を深め、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた取組を推進する。	A	B
3	学力の向上 学校図書館	学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果から、引き続き算数・数学に課題がみられるので、登別市教育課程課題検討委員会における無回答率や誤答の実態把握、分析結果を活用し、個に応じた指導や授業改善など、各学校における教育実践の充実が図られるよう支援していく。 また、学校図書館については、学校司書・司書教諭・図書ボランティアが中心となり小・中学校が連携した取組や児童・生徒が主体的に取り組む図書委員会の活動など、さらなる読書活動の充実が図られるよう促していく。	B	B
4	英語教育	英語教育については、小学校学習指導要領における外国語活動や外国語科に対応するためこれまでの移行期間中に標準時数の確保や教員の指導力の向上に取り組んできた。 今後も、児童・生徒の英語学習に対する関心・意欲が向上するよう、小学校四年生全員の英検ジュニア受験、中学校生徒に対する英検三級検定料の半額補助を実施するとともに、外国語指導助手の活用や環境整備に努め、コミュニケーションの素地・基礎となる資質・能力の育成を図る。	A	A
5	教職員の指導力の向上	教職員の指導力の向上については、登別市教育実践研究奨励校を指定し、各校の研究・研修活動を支援するとともに、北海道教育委員会が指定する「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の在り方を研究していく。 また、学校における働き方改革については、勤務時間の管理や業務の効率化、部活動の適切な活動時間と休養日の設定、部活動指導員の配置を進めるなど、教員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務することができる環境の整備に努めていく。	B	B
6	情報教育	情報教育については、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図るため、国の「ＧＩＧＡスクール構想」に基づき、校内通信ネットワークを整備するとともに、年次的に児童・生徒一人一台の端末を整備してまいります。 また、各学校の情報教育推進教員を中心に学習ルールの整備や授業実践事例の蓄積を進めるとともに、授業公開や研修会を実施するなど、教員によるＩＣＴを活用した授業力向上の取組を促してまいります。	A	B

7	豊かな心の育成	豊かな心の育成については、これまでも主に総合的な学習の時間や道徳科の授業において、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、実体験を重視した実践を継続してきたので、今後も自然体験や社会体験、ボランティア活動、外部指導者を招いての講演など、各学校の特色ある教育活動を積極的に支援していく。	A	A
8	体力の向上	体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校では全国水準を超える結果を維持しており、中学校では全国平均を下回っているものの改善傾向にあるので、体育科のさらなる授業改善やスポーツ指導員の派遣を通して、児童・生徒の体力と運動能力の向上に努めていく。 また、望ましい生活習慣の確立のため「ノーゲームデー」や「早寝早起き朝ごはん」の取組を啓発していく。	A	B
9	安全教育 学校の耐震化	安全教育については、地域や小・中学校が合同で行う避難訓練や一日防災学校をはじめ、交通安全指導や防犯教室、情報モラル教室・薬物乱用防止教室など、児童・生徒が状況に応じて適切に判断し、行動する力を身に付ける取組を引き続き支援していく。 学校施設については、幌別東小学校と幌別中学校校舎の耐震改修工事を実施する。学校の耐震化は令和二年度をもって完了となるので、今後は「教育施設等長寿命化計画」を基に、修繕や改修を行いながら、安全・安心な施設整備に取り組んでいく。	A	A
10	不登校・いじめ対策	不登校・いじめ対策については、引き続き学校と教育委員会が連携を密にしながら、情報交流や教職員研修により教員の生徒指導力の向上を図るとともに、教育指導専門員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員による相談、適応指導教室における登校支援の充実を図るなど、不登校解消といじめ根絶に努めていく。	B	B
11	学校の適正配置	学校の適正配置については、児童・生徒にとって望ましい教育環境を整備するため、令和元年度は幌別中学校区と西陵中学校区において、保護者や地域との意見交換会を開催するなど、具体的な教育上の課題を整理してきた。 令和二年度は、登別中学校区において意見交換の機会を設け、丁寧な議論を進めるとともに、これまでの進捗状況を踏まえ、「登別市学校適正配置基本方針」に基づき、取組を推進する。	A	B
12	特別支援教育	特別支援教育については、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図るため、介助員や学習支援員を適切に配置するとともに、各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育九年間の連続性を配慮し、きめ細やかな教育相談や就学指導が行われるよう努める。	A	A
13	生涯学習社会の実現	「第５次社会教育中期計画」に基づき、市民一人一人が、健康で安心できる生活の中で、生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、各種施策の推進に努めていく。	B	B
14	ふるさと教育	ふるさと教育については、郷土に誇りと愛着を持ち、積極的に地域社会と関わる人材の育成を図るため、関係機関や団体と連携し、郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実に努める。 また、アイヌ民族の歴史や文化に触れ、理解が一層深まるよう、市内公共施設にアイヌ文様のタペストリーを展示するとともに、郷土資料館の展示をリニューアルするなどアイヌ文化に対する興味・関心が高まるよう努めていく。	A	B
15	家庭教育	家庭教育については、「家庭教育学級」を開設し、保護者を対象とした子育てに関する情報提供や活動支援の充実に努める。	A	B

		また、家庭や地域の協力を得て実施している「放課後子ども教室」「家族の週間」などの事業については、子供たちが地域社会の中でのびのびと健やかに成長するように取り組んでいく。		
16	青少年の健全育成	青少年の健全育成については、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導、「こども１１０番スタディちゃんの家」の取組など、多くの目で子供を見守る環境の整備に努めていく。	A	A
17	文化・スポーツの振興	文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室・大会の開催などの取組を推進するとともに、本市の歴史や文化が継承されるよう、市民意識の醸成に努めていく。 令和２年度は、三市三町で実施する西いぶり定住自立圏文化事業において、日本の伝統文化に触れるため、「上方落語」の公演を本市で開催する。 また、令和２年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年であるため、障がい者スポーツへの理解が深まるよう、パラリンピックの車いすテニスの元日本代表選手や陸上競技の伴走者を招き、市民や児童・生徒を対象とした講演会や実技講習会を開催する。	A	B
18	学校給食	学校給食については、郷土を実感できる食材を取り入れた献立づくりや栄養教諭による食育指導を通して、食に対する関心を高めるとともに、衛生管理の徹底を図るなど、安全・安心な給食の提供に努める。	A	A
19	図書館	図書館については、ボランティアとの協働による郷土資料の収集とデジタル化、郷土史関連講座の開催、アイヌに関する文献収集を進めるとともに、引き続きブックスタートやライブラリースタート、おはなし会、「ビブリオバトルの夕べ」を実施するなど、読書や文化に親しむ環境づくりを推進していく。	A	A

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

１　地域とともにある学校づくり

○　北海道教育の日に合わせた「ふれあいウィーク」の取組は、住民に強い印象を与えることになる。是非、参加者が増えるよう、市を挙げての高揚を期待し、実施計画の呼び掛けにより、理解を深めてほしい。

○　コミュニティ・スクールの目指すイメージの明確化や再認識をし、目指す成果を共有して前進してほしい。

３　学力の向上 学校図書館

○　点検内容として挙げられている算数・数学に課題が見られるという部分においては、問題文を良く理解することなく、何となく解答する傾向は高年次の学生でも同様ではないか。この傾向を解決することなく、高校へ進学し、そのまま専門学校・大学へ進学している状況である。算数・数学に課題が見られるということだが、根本は国語教育なのではないか。長文読解力はすべての科目において必要なことであり、論理的に物事を考えることが苦手な人が多いのではないか。

○　子どもにとって、学習の窓口はどんどん広げられている。しかし、思考力・判断力など、更なる深い取組が必要である。子どもの興味誘発の才を漢検や英検などにチャレンジすることでレベルを上げることもいい。また、グローバル社会において、子ども新聞の活用なども総合学習の大切な土台であり、成果を示してほしい。

５　教職員の指導力の向上

○　大変な改革の時代に入り、小学校の教科担任制や連携校への出張授業など、多様な展開が始まっている。地域のリーダーシップを学校力向上のために活用してほしい。実践と成果を地域の人たちに伝える努力をしていくことが必要である。

○　小中共通の学習規律、習慣化させたい１０項目は、授業を進める基盤なので最重要課題として進めて欲しい。

○　校務支援システムを大いに活用し、教職員の仕事軽減につなげて欲しい。

６　情報教育

○　ＩＣＴの活用は、一つの授業で取り扱うという状況ではなく、どの科目も何らかの形でＩＣＴを活用している形が望ましい。教科に偏らず、様々なＩＣＴの利用方法について検討していただきたい。

○　ＩＣＴの活用について、学習ルールの整備等があるが、習慣化されていくようにと望んでいる。スマホはもう日用携帯品となっている。どう活用していくか、正しく操作できる能力を持たせなくてはならない。実態や数値を知らせ、自主的に考えて扱うことができる能力の育成が大切である。是非、取組を丁寧に説明していってほしい。

７　豊かな心の育成

○　新たな郷土史体験や地産地消など食育体験が増えてきている。子どもにとっては、実体験こそ期待は膨らんでくる。子ども時代の体験は、間違いなく人生や生きがいの土台となり、後に力となるから、多種多様な取組に対応していける能力を身に付けていくようにしたい。高齢者、障害者、異国民などに接して理解し、心の壁を少しずつなくすことが大切である。

○　コロナ禍での体験中止や未実施はやむをえない。

８　体力の向上

○　体力向上一校一実践やスポーツ指導員の活用等により、運動好きな子どもを増やして体力向上を進めていただきたい。

９　安全教育

○　情報モラル教育について取り組まれていることがわかった。ここの理解が薄いまま高年次の学年になると、様々な大きな問題に発展する。非常に重要なことと捉えている。匿名で好き放題に書き込みを行うといった行為も頻繁に行われている世の中であり、情報モラルが低い人が多く存在しているのも事実である。そのようなことにならないよう、自ら正しい行動を起こせる人間の育成ができるよう期待している。

１０　不登校・いじめ対策

○　コロナ禍になり、不登校・いじめが増加している。いろんなケースがあるが、早期発見・早期対応しかないようである。子どもの心が離れていかないように、何か気づいたら、声を掛け合うなど、相談件数の変化など、その月々の傾向を学校便り等で一声あるといい。

１１　学校の適正配置

○　この計画は児童・生徒にとって望ましい教育環境を整備することを大前提に保護者・地域とともに推進していただきたい。

１４　ふるさと教育

○　郷土の誇りと愛着心は、いつまでも心に残り生きていくものである。アイヌ文化や開拓については、世界に名高い人物を通して学ぶことができる。特に、登別の地は、絶景と言われる地形の宝庫である。見たり聞いたりするだけでなく、現地歴史学を起こし、実際に移動しながら体験するガイド付きの学習設定があってもいいのではないか。その場の感動が大切である。また、縄文文化についても、現場の景観から学びたいものである。

○　郷土資料館においてアイヌ展示コーナーや配置換えにより明るく見やすい施設になり多くの来館を期待したい。

１５　家庭教育

○　コロナ感染という重圧のもとでの生活習慣はどうあるべきか。どんな苦しみや悩みがあるのか、または起こるかという未知なる模索が続くが、この時代だからこそ、緊急の対応はどうあるべきか。子どもの心を探るとか、今、何がしたいのか、どんなことを我慢しているか、互いに分析して、どういう光を求めるか考えることが大切である。何かヒントになるテーマや課題をもとに進めていけたらと思う。感染が収まるまで、教育的に緊急の対応策として取り組む知力が試されている。

１６　青少年の健全育成

○　防犯は大切だが、数値と同時に気になる傾向など知らせてくれると、住民も心づもりができる。子どもだけの問題でなく、大人がきちんと行動を正すためにも、情報を流してほしい。住民一人一人が健全育成のリーダーなんだという意識につながる。

１７　文化・スポーツの振興

○　いろいろな種の文化活動があるが、良き映画、演劇などもある。一堂に集まり共通の話題で話し合い、語り合うことが大事。コミュニケーションの道具である。全校みんなで鑑賞するものがほしい。今年の評価には入らないが、オリンピック・パラリンピックのような国家の盛大な祭りを子どもたちの育成にどのようにつなぐか、一世一代の教育的資源である。スポーツにかける夢、そして、表現の美を堪能させるための取組を提示することこそ、人間力向上につながる。観戦時間割などが考えられる。

○　「地域スポーツのあり方検討委員会」が多くの団体で構成され開催されたことの意義は大きく、今後、会からの提案等を期待したい。

１８　学校給食

○　今や食育は全世界に広がるほど楽しいものになっている。地場産品や近隣、姉妹都市、外国のメニューなど、いろいろな知識を得ることで日本食のありがたさも知る。食育を通して広がる民衆、民族理解が輪を広げ外国との対話に結びつく。アイヌの食文化も好奇心を大きく育てる。

○　コロナ禍での給食指導や給食センターでの献立・カロリーに関する課題の克服に敬意を表したい。

【全体を通して】

○　コロナ禍における事業等の未実施や中止はやむをえない対応と考える。よって、本年度の評定が下がっているととらえたい。

○　学校の先生方一人一人が地域社会のリーダーであり、我々もまた、リーダーである。互いに子どもたちが地域社会を見開く力を育てていきたい。

Ⅴ 評価のまとめ

令和２年度の登別市教育委員会の重点施策として、点検・評価で取り上げた19項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・　１２項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・　０項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・・　０項目

であり、教育行政執行方針に沿っておおむね適切な教育行政の執行がなされたと考えております。今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

※　令和２年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、多くの事業が中止や縮小を余儀なくされたことにより、例年よりもＡ評定が減少しています。

Ⅵ 参 考 資 料

１　令和2年　教育行政執行方針

令和二年第一回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

令和の時代を迎えた今、我が国では、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、Ｓｏｃｉｅｔｙ５・０の到来といった社会の変化に伴い、教育を取り巻く環境が大きな変化を見せています。

こうした中、中央教育審議会では、新しい時代の初等中等教育の在り方について諮問を受け、これからの学びを支えるＩＣＴや先端技術の効果的な活用、義務教育九年間を見通した教科担任制の在り方等について、審議が進められております。

教育委員会としましては、これらの動向を見極めながら、令和二年四月から全面実施となる新学習指導要領の着実な実施を図るとともに、市民一人一人が生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

以下、令和二年度の重点項目について申し上げます。

はじめに地域とともにある学校づくりについてであります。

本市においては、地域と学校が連携・協働体制を構築し、地域全体で子供たちの育成を図る「地域学校協働本部事業」に取り組んでまいりました。

今後は、よりきめ細やかに地域の実情を把握し、将来を見据えて持続可能な取組とするため、学校コーディネーターの配置を段階的に進め、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により、登別らしい特色ある教育活動を展開してまいります。

次に学校教育についてであります。

幼保・小・中連携については、今年度より北海道教育委員会による「幼児教育と小学校教育の接続の円滑化モデル事業」の指定を受け、相互参観や合同研修、スタートカリキュラムの作成などの取組を進めてまいりましたので、推進リーダーを中心にこれまでの取組を効果的に反映させ、引き続き事業の推進に努めてまいります。

小中一貫教育については、各中学校区において、義務教育九年間の系統性・連続性に配慮した創意ある教育活動が展開されておりますので、取組の成果と課題を検証するとともに、実践交流の充実が図られるよう支援してまいります。

また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校と連携するとともに、職場訪問や職業体験を通して地元への愛着や理解を深め、児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた取組を推進してまいります。

学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果から、引き続き算数・数学に課題がみられますので、登別市教育課程課題検討委員会における無回答率や誤答の実態把握、分析結果を活用し、個に応じた指導や授業改善など、各学校における教育実践の充実が図られるよう支援してまいります。
また、学校図書館については、学校司書・司書教諭・図書ボランティアが中心となり、小・中学校が連携した取組や児童・生徒が主体的に取り組む図書委員会の活動など、さらなる読書活動の充実が図られるよう促してまいります。

英語教育については、小学校学習指導要領における外国語活動や外国語科に対応するため、これまでの移行期間中に標準時数の確保や教員の指導力の向上に取り組んでまいりました。
今後も、児童・生徒の英語学習に対する関心・意欲が向上するよう、小学校四年生全員の英検ジュニア受験、中学校生徒に対する英検三級検定料の半額補助を実施するとともに、外国語指導助手の活用や環境整備に努め、コミュニケーションの素地・基礎となる資質・能力の育成を図ってまいります。

教職員の指導力の向上については、登別市教育実践研究奨励校を指定し、各校の研究・研修活動を支援するとともに、北海道教育委員会が指定する「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小学校高学年の教科担任制の在り方を研究してまいります。

また、学校における働き方改革については、勤務時間の管理や業務の効率化、部活動の適切な活動時間と休養日の設定、部活動指導員の配置を進めるなど、教員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務することができる環境の整備に努めてまいります。

情報教育については、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図るため、国の「ＧＩＧＡスクール構想」に基づき、校内通信ネットワークを整備するとともに、年次的に児童・生徒一人一台の端末を整備してまいります。
また、各学校の情報教育推進教員を中心に学習ルールの整備や授業実践事例の蓄積を進めるとともに、授業公開や研修会を実施するなど、教員によるＩＣＴを活用した授業力向上の取組を促してまいります。

豊かな心の育成については、これまでも主に総合的な学習の時間や道徳科の授業において、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、実体験を重視した実践を継続してきましたので、今後も自然体験や社会体験、ボランティア活動、外部指導者を招いての講演など、各学校の特色ある教育活動を積極的に支援してまいります。

体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校では全国水準を超える結果を維持しており、中学校では全国平均を下回っているものの改善傾向にありますので、体育科のさらなる授業改善やスポーツ指導員の派遣を通して、児童・生徒の体力と運動能力の向上に努めてまいります。
また、望ましい生活習慣の確立のため、「ノーゲームデー」や「早寝早起き朝ごはん」の取組を啓発してまいります。

安全教育については、地域や小・中学校が合同で行う避難訓練や一日防災学校をはじめ、交通安全指導や防犯教室、情報モラル教室・薬物乱用防止教室など、児童・生徒が状況に応じて適切に判断し、行動する力を身に付ける取組を引き続き支援してまいります。
学校施設については、幌別東小学校と幌別中学校校舎の耐震改修工事を実施いたします。学校の耐震化は令和二年度をもって完了となりますので、今後は「教育施設等長寿命化計画」を基に、修繕や改修を行いながら、安全・安心な施設整備に取り組んでまいります。

不登校・いじめ対策については、引き続き学校と教育委員会が連携を密にしながら、情報交流や教職員研修により教員の生徒指導力の向上を図るとともに、教育指導専門員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員による相談、適応指導教室における登校支援の充実を図るなど、不登校解消といじめ根絶に努めてまいります。

学校の適正配置については、児童・生徒にとって望ましい教育環境を整備するため、令和元年度は幌別中学校区と西陵中学校区において、保護者や地域との意見交換会を開催するなど、具体的な教育上の課題を整理してまいりました。
令和二年度は、登別中学校区において意見交換の機会を設け、丁寧な議論を進めるとともに、これまでの進捗状況を踏まえ、「登別市学校適正配置基本方針」に基づき、取組を推進してまいります。

特別支援教育については、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図るため、介助員や学習支援員を適切に配置するとともに、各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育九年間の連続性を配慮し、きめ細やかな教育相談や就学指導が行われるよう努めてまいります。

次に、社会教育についてであります。

「第五次社会教育中期計画」に基づき、市民一人一人が、健康で安心できる生活の中で、生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、各種施策の推進に努めてまいります。

ふるさと教育については、郷土に誇りと愛着を持ち、積極的に地域社会と関わる人材の育成を図るため、関係機関や団体と連携し、郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実に努めてまいります。
また、アイヌの歴史や文化に触れ、理解が一層深まるよう、市内公共施設にアイヌ文様のタペストリーを展示するとともに、郷土資料館の展示をリニューアルするなど、アイヌ文化に対する興味・関心が高まるよう努めてまいります。

家庭教育については、「家庭教育学級」を開設し、保護者を対象とした子育てに関する情報提供や活動支援の充実に努めてまいります。

また、家庭や地域の協力を得て実施している「通学合宿」や「放課後子ども教室」、「家族の週間」などの事業については、子供たちが集団の中で基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、地域社会の中でのびのびと健やかに成長するように取り組んでまいります。

青少年の健全育成については、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導、「こども一一〇番スタディちゃんの家」の取組など、多くの目で子供を見守る環境の整備に努めてまいります。

文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室・大会の開催などの取組を推進するとともに、本市の歴史や文化が継承されるよう、市民意識の醸成に努めてまいります。
令和二年度は、三市三町で実施する西いぶり定住自立圏文化事業において、日本の伝統文化に触れるため、「上方落語」の公演を本市で開催します。
また、令和二年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年でありますので、障がい者スポーツへの理解が深まるよう、パラリンピックの車いすテニスの元日本代表選手や陸上競技の伴走者を招き、市民や児童・生徒を対象とした講演会や実技講習会を開催します。

学校給食については、引き続き郷土を実感できる食材を取り入れた献立づくりや栄養教諭による食育指導を通して、食に対する関心を高めるとともに、衛生管理の徹底を図るなど、安心・安全な給食の提供に努めてまいります。
また、給食管理システムを導入し、効率的な給食事業の運営に努めてまいります。

図書館については、ボランティアとの協働による郷土資料の収集とデジタル化、郷土史関連講座の開催、アイヌに関する文献収集を進めるとともに、引き続きブックスタートやライブラリースタート、おはなし会、「ビブリオバトルの夕べ」を実施するなど、読書や文化に親しむ環境づくりを推進してまいります。

以上、令和二年度の重点項目について申し上げました。

令和二年は、市制施行五十周年となります。
教育委員会としましては、将来にわたって輝き続けるまちの実現を目指し、登別市教育大綱を基本として、ふるさとの教育資源を積極的に活用し、豊かな個性や人間性をもつ人材の育成に全力で取り組んでまいります。

市民の皆さん並びに議会議員の皆さんのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

